

平成17年(2005年)鋳工業指数の動向

平成17年(2005年)鉱工業指数の動向

注：数値は、小数点2位以下（寄与度は3位以下）を四捨五入した形で表示してありますが、元の数値は2位以下の数があるため、計算したときに小数点1位（寄与度は2位）で差異が出る場合があります。

例： 30ページの表1 平成16年 前年比の計算

表示されている数値での計算は $105.6 \div 103.3 \times 100 - 100 = 2.22652\dots$ 2.2 となりますが、実際の計算は $105.6 \div 103.2583\dots \times 100 - 100 = 2.26777\dots$ 2.3 と計算しており、表示される数値は2.3 となります。

1 概 況

(1) 生産動向 - 生産指数は4年連続上昇 -

平成17年の生産指数(原指数)は、前年比0.7%上昇の106.3となり、4年連続で上昇した(表1、図1、統計表第1表)。13年は低下したが、13年 期には下げ止まるとともに、14年には上昇に転じ、15年も引き続き緩やかに上昇した。16年も上昇を続けるが、16年 期には一旦低下し、17年は年間をとおしてみると緩やかに上昇している。

なお、全国と比較すると、本県の実績は同様の動きをしているが、全国を上回る水準で推移している(表1、統計表(参考))。

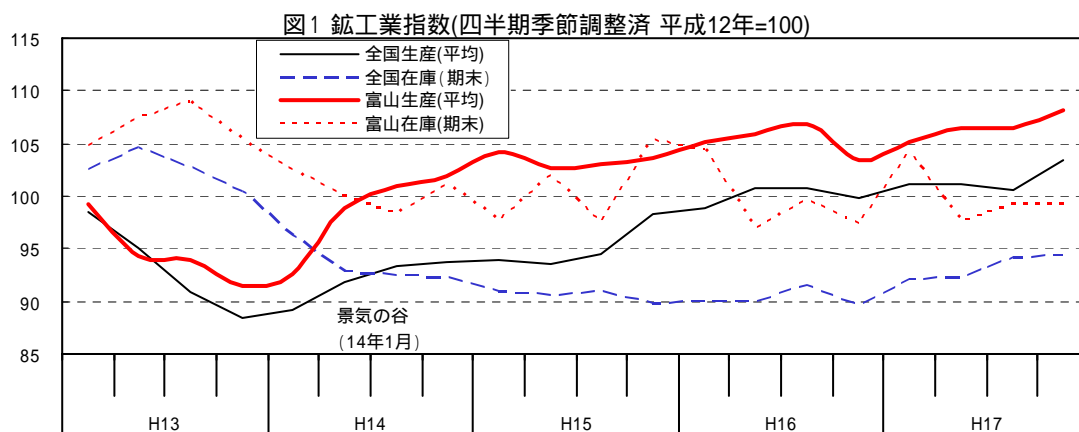
表1 鋳工業生産指数の推移

平成12年=100

	富 山			全 国		
	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成13年	94.6	5.4	-	93.2	6.8	-
14年	98.6	4.2	-	92.0	1.3	-
15年	103.3	4.8	-	95.0	3.3	-
16年	105.6	2.3	-	100.2	5.5	-
17年	106.3	0.7	-	101.3	1.1	-
平成17年四半期別推移(季節調整済指数)						
1 期	105.1	-	1.5	101.2	-	1.4
2 期	106.4	-	1.2	101.1	-	0.1
3 期	106.4	-	0.0	100.6	-	0.5
4 期	108.2	-	1.7	103.4	-	2.8

注:全国指数は「経済産業省 鋳工業指数」から転載

17年の生産の動きをみると、 期以外では緩やかに上昇しており、年間をとおして上昇傾向にある。また、在庫の動きをみると、 期は上昇し、 期で低下したが、 期、 期と2期連続で上昇した(図1、図13)。



「景気の山・谷」は、内閣府経済社会総合研究所発表の景気基準日付による。

表2 生産指数(年平均)

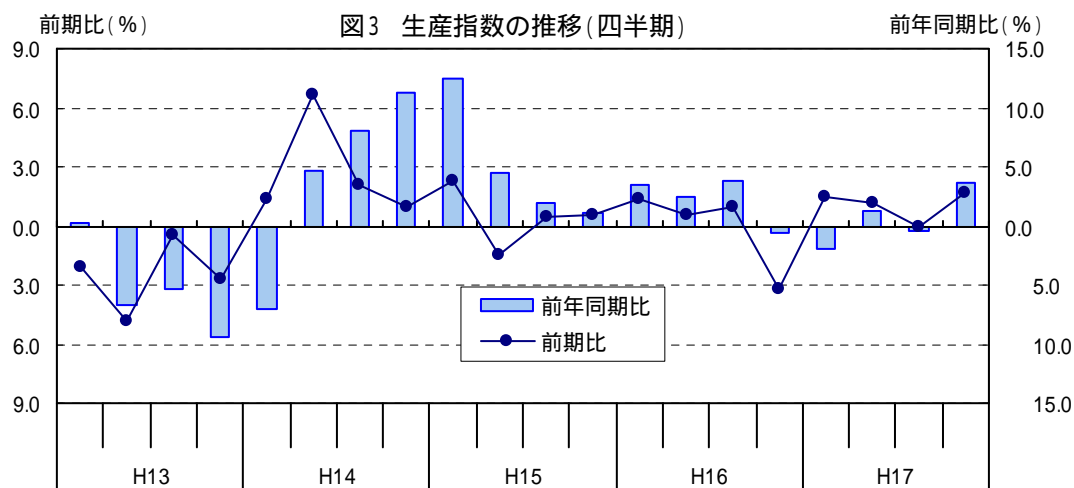
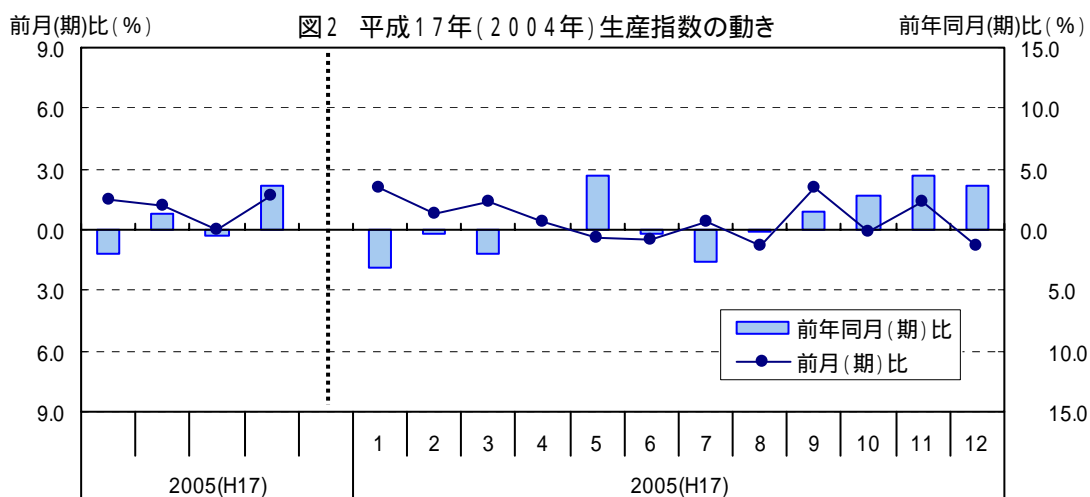
平成12年 = 100

	富山県	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%point)	全国(参考)
	ウェイト	16年	17年			ウェイト
鉱工業	10,000.0	105.6	106.3	0.7	0.66	10,000.0
製造工業	9,997.4	105.6	106.3	0.7	0.66	9,983.9
鉄鋼業	255.4	98.5	108.8	10.5	0.25	440.3
非鉄金属工業	527.4	115.6	118.5	2.5	0.14	197.6
金属製品工業	1,911.2	92.9	91.9	1.1	0.18	567.7
一般機械工業	819.7	112.6	126.8	12.6	1.10	1,270.5
電気機械工業	1,631.2	134.3	131.9	1.8	0.37	2,189.4
輸送機械工業	142.9	99.7	99.6	0.1	0.00	1,229.2
窯業・土石製品工業	266.6	80.6	85.7	6.3	0.13	432.6
化学工業	1,946.3	112.3	111.5	0.7	0.15	1,174.0
医薬品	1,302.4	117.6	117.2	0.3	0.05	334.3
プラスチック製品工業	520.3	103.5	109.4	5.7	0.29	439.3
パルプ・紙・紙加工品工業	526.5	93.4	94.1	0.7	0.03	316.7
繊維工業	506.6	85.3	78.4	8.1	0.33	336.3
食料品工業	411.8	92.3	87.1	5.6	0.20	782.0
その他の工業	492.4	75.4	72.9	3.3	0.12	523.6
鉱業	2.6	-	-	-	-	16.1
(参考)						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	10,772.0	106.3	106.3	0.0	0.00	10,625.7
電力・ガス事業	772.0	115.9	106.5	8.1	0.69	625.7

$$\text{寄与度} = \frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$$

四半期別にみると、生産の前期比（季節調整済指数）は、1期1.5%、2期1.2%、と2期連続で上昇し、3期では0.0%と横ばいとなったものの、4期では1.7%と再び上昇した。

また、前年同期比（原指数）は、1期は1.9%と前年を下回り、2期には1.3%と上回ったが、3期で0.5%と再び前年を下回り、4期は3.7%と前年を上回った（図2、図3）。



業種別にみると、製造工業 13 業種中、一般機械工業、プラスチック製品工業など 6 業種が上昇し、電気機械工業、繊維工業など 7 業種が低下した（表 3、図 4、図 5、図 6、詳細は「2. 業種別動向」を参照）。

生産指数（原指数）全体の上昇に最も影響を与えたのは一般機械工業（寄与度 1.10）で、金属工作機械などの増加により、前年比 12.6% 上昇の 126.8 となった。ついで、プラスチック製品工業が、機械器具部品などの増加により前年比 5.7% 上昇の 109.4 となった。

他方、低下に最も影響を与えたのは電気機械工業（寄与度 0.37）で電子部品などの減少により、前年比 1.8% 低下の 131.9 となった。ついで、繊維工業はその他繊維製品の減少により、前年比 8.1% 低下の 78.4 となった（表 2、表 3、図 4、図 5、図 6）。

表3 業種別生産指数上昇・低下一覧（寄与度の高い順）

	業 種	寄与度	主な増加品目	主な減少品目
上昇業種	一般機械工業	1.10	金属工作機械	
	プラスチック製品工業	0.29	機械器具部品	フィルム・シート
	鉄鋼業	0.25	鋳鍛鋼品類	
	非鉄金属工業	0.14	アルミニウム二次精練	伸銅製品
	窯業・土石製品工業	0.13	ガラス製品	その他窯業・土石製品
	パルプ・紙・紙加工品工業	0.03	情報用紙	板紙
低下業種	電気機械工業	0.37	集積回路	電子部品
	繊維工業	0.33		その他繊維製品
	食料品工業	0.20	乳製品	畜産製品
	金属製品工業	0.18	その他金属製品	金属製建具
	化学工業	0.15	尿素	無機化学製品
	その他の工業	0.12	精密機械工業	その他製品工業
	輸送機械工業	0.00	自動車部品	自動車ボデー

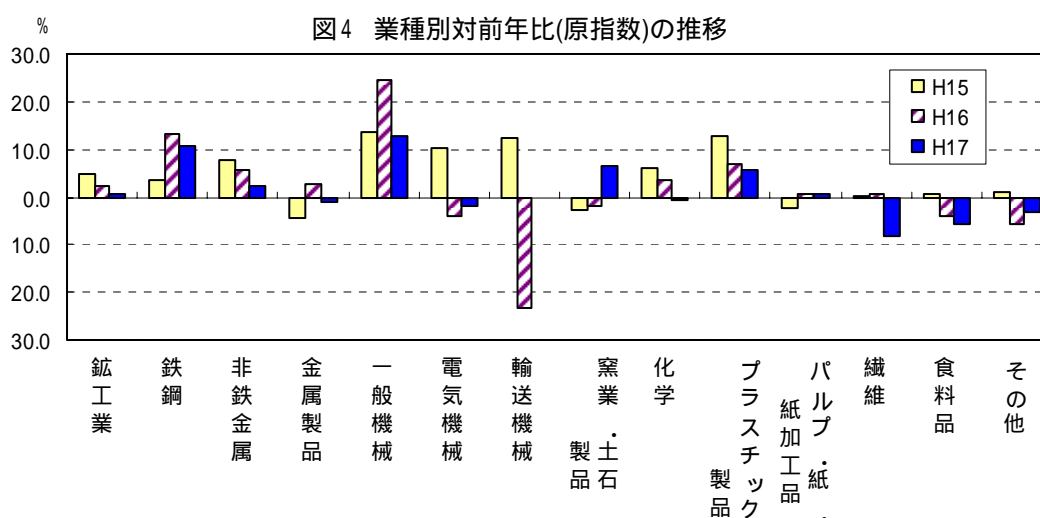


図5 業種別生産指数前年比と寄与度(H17)

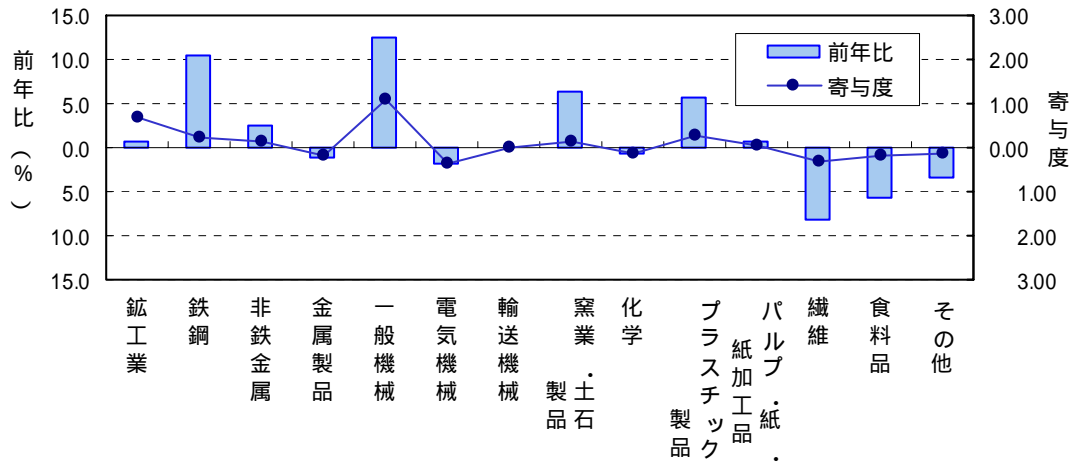
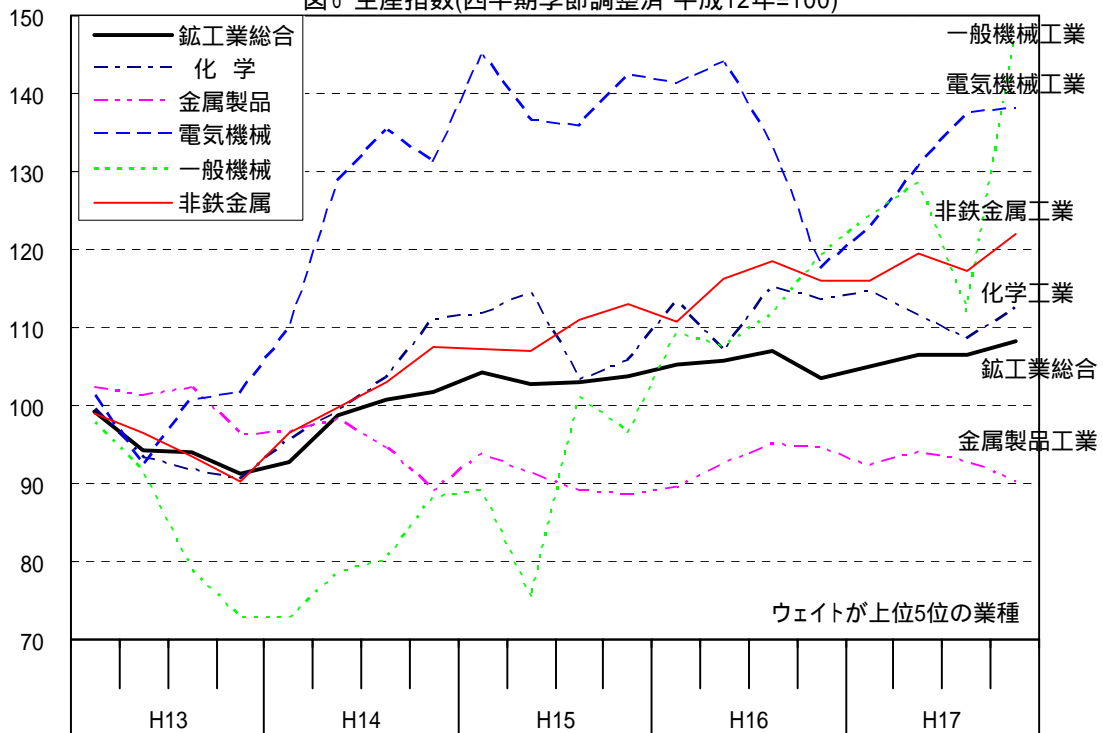


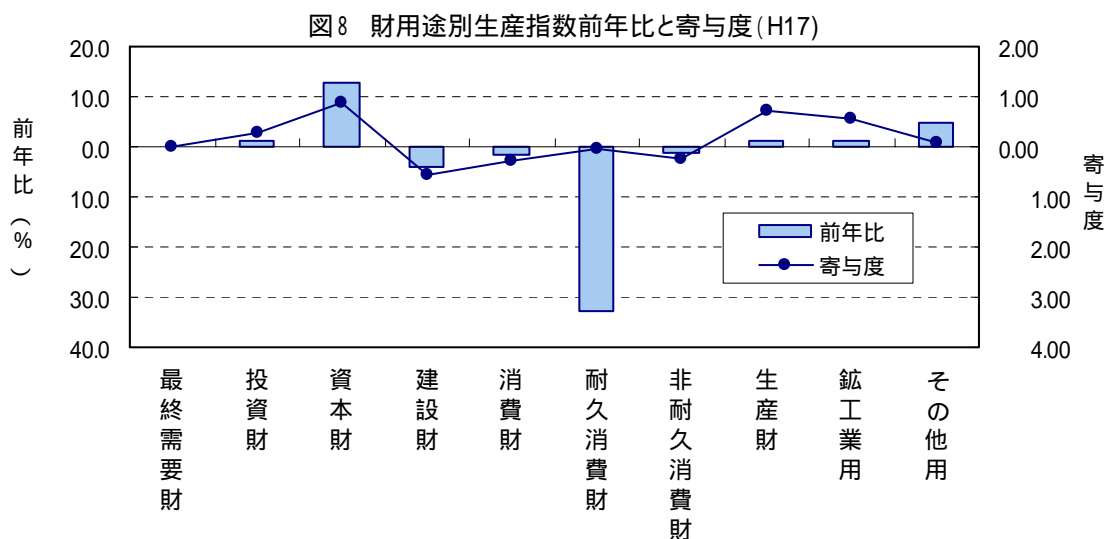
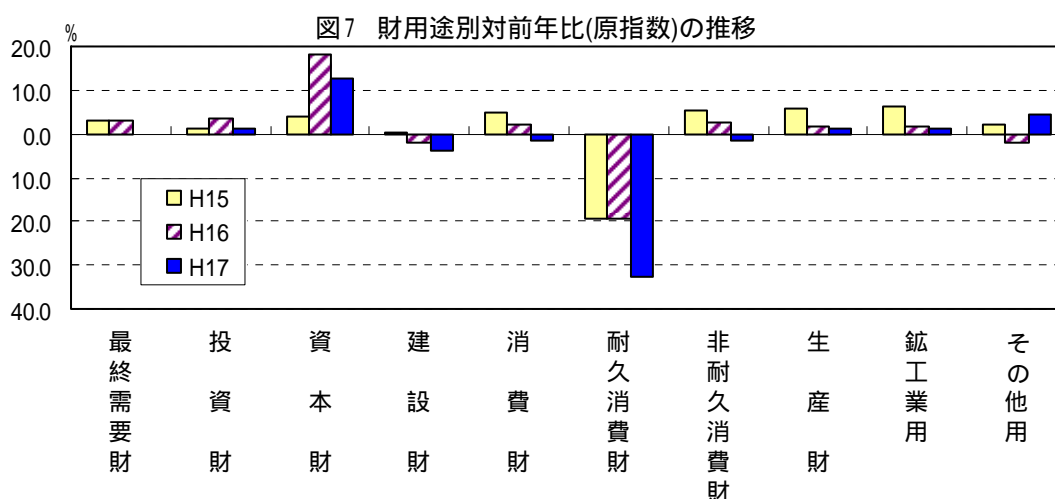
図6 生産指数(四半期季節調整済 平成12年=100)



財用途別生産指数（原指数）の前年比は、資本財 12.7%、建設財 3.9%、耐久消費財 32.9%、非耐久消費財 1.3%、生産財 1.2%となり、資本財と生産財が全体の伸びを引っ張った（表4、図7、図8、統計表第5表）。

表4 生産指数（財用途分類・年平均） 平成12年=100

	ウェイト (万分比)	年平均指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%point)
		16年	17年		
鉱工業	10,000.0	105.6	106.3	0.7	0.66
最終需要財	4,286.7	101.0	101.0	0.0	0.00
投資財	2,318.9	96.8	98.1	1.3	0.29
資本財	662.1	109.8	123.7	12.7	0.87
建設財	1,656.8	91.5	87.9	3.9	0.56
消費財	1,967.8	106.1	104.5	1.5	0.30
耐久消費財	21.2	72.9	48.9	32.9	0.05
非耐久消費財	1,946.6	106.5	105.1	1.3	0.26
生産財	5,713.3	108.9	110.2	1.2	0.70
鉱工業用生産財	5,518.4	109.4	110.5	1.0	0.57
その他用生産財	194.9	97.2	101.7	4.6	0.08



(2) 在庫動向 在庫指数は2年ぶりに上昇

平成17年の在庫指数(原指数)は、前年末比2.6%上昇の96.1となり、2年ぶりに上昇した(表5)。

表5 鉱工業生産者製品在庫指数の推移 平成12年=100

	富 山			全 国		
	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成13年	101.5	4.3	-	98.3	0.7	-
14年	97.4	4.0	-	90.4	8.0	-
15年	101.7	4.4	-	88.2	2.4	-
16年	93.7	7.0	-	87.9	0.3	-
17年	96.1	2.6	-	92.6	5.3	-
平成17年四半期別推移(季節調整済指数)						
1期	104.1	-	6.9	92.0	-	2.8
2期	97.6	-	6.2	92.3	-	0.3
3期	99.2	-	1.6	94.1	-	2.0
4期	99.2	-	0.0	94.3	-	0.2

四半期別にみると、前期末比(季節調整済指数)は、1期は6.9%上昇し、2期には6.2%低下したが、3期で1.6%上昇し、4期は0.0%と横ばいとなった。

また、前年同期末比(原指数)では、1期は1.5%前年を上回り、2期で0.8%、3期で0.2%前年を下回ったが、4期で再び2.6%前年を上回った(図9、図10)。

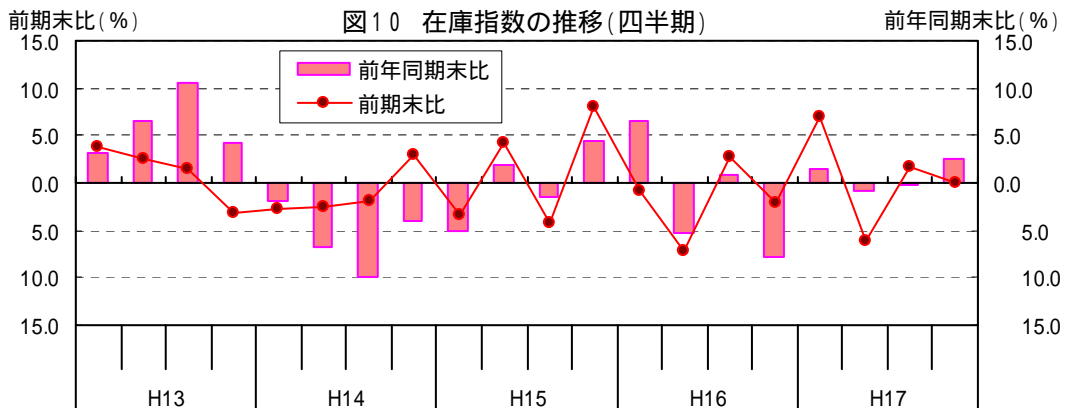
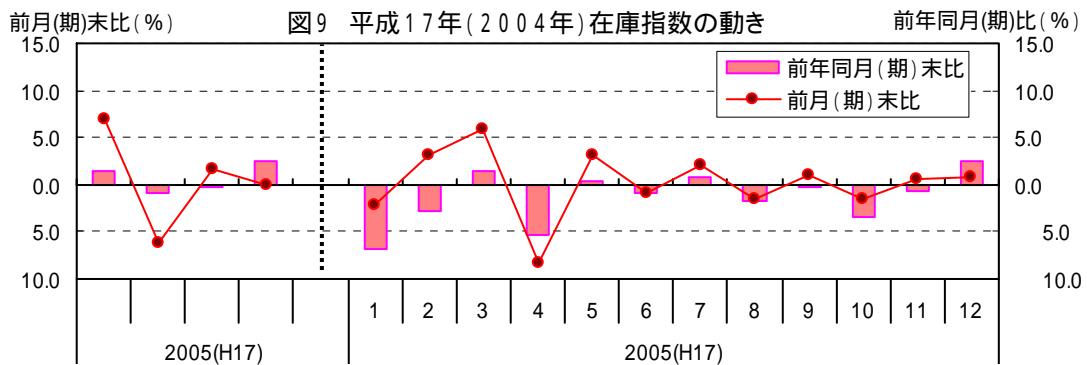


表6 在庫指数(年末)

平成12年 = 100

	富山県 ウェイト	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%point)	全国(参考) ウェイト
		16年	17年			
鉱工業	10,000.0	93.7	96.1	2.6	2.56	10,000.0
製造工業	10,000.0	93.7	96.1	2.6	2.56	9,984.4
鉄鋼業	613.0	101.5	94.5	6.9	0.46	855.4
非鉄金属工業	580.4	85.0	107.7	26.7	1.41	267.1
金属製品工業	2,190.9	78.0	76.1	2.4	0.44	567.4
一般機械工業	513.7	103.0	119.3	15.8	0.89	955.3
電気機械工業	270.1	49.9	89.0	78.4	1.13	1,425.9
輸送機械工業	111.9	118.4	88.7	25.1	0.35	791.7
窯業・土石製品工業	323.2	83.2	81.5	2.0	0.06	718.7
化学工業	2,329.6	104.6	111.7	6.8	1.77	1,420.0
医薬品	1,392.8	106.7	129.3	21.2	3.36	-
プラスチック製品工業	731.2	95.9	103.5	7.9	0.59	432.8
パルプ・紙・紙加工品工業	533.1	116.0	120.1	3.5	0.23	324.4
繊維工業	582.2	102.6	90.0	12.3	0.78	552.2
食料品工業	668.0	78.5	68.0	13.4	0.75	544.8
その他の工業	450.2	103.3	97.4	5.7	0.28	686.1
鉱業	-	-	-	-	-	15.6
(参考)						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	10,001.3	93.7	96.2	2.7	2.67	-
電力・ガス事業	1.3	154.9	183.8	18.7	0.00	-

$$\text{寄与度} = \frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$$

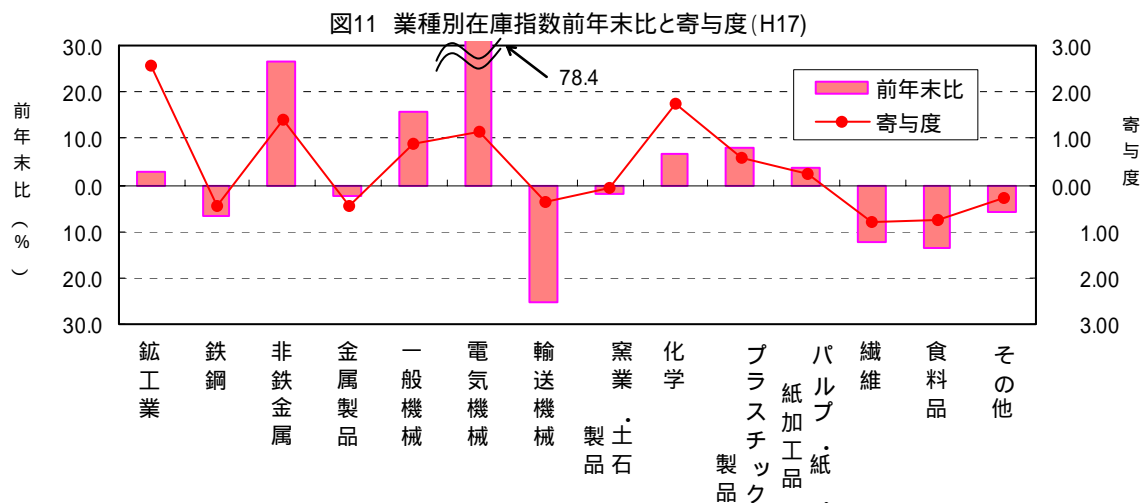
業種別によると、製造工業 13 業種中、化学工業、非鉄金属工業など 6 業種が上昇し、繊維工業、食料品工業など 7 業種が低下した(表 7、図 11、詳細は「2.業種別動向」を参照)。

在庫指数(原指数)全体の上昇に最も影響を与えたのは化学工業(寄与度 1.77)で、医薬品などの増加により、前年末比 6.8%上昇の 111.7 となった。ついで、非鉄金属工業は電線ケーブルなどの増加により、前年末比 26.7%上昇の 107.7 となった。

他方、低下に最も影響を与えたのは繊維工業(寄与度 0.78)で織物などの減少により、前年末比 12.3%低下の 90.0 となった。ついで、食料品工業が飲料などの減少で前年末比 13.4%低下の 68.0 となった(表 6、表 7、図 11)。

表 7 業種別在庫指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

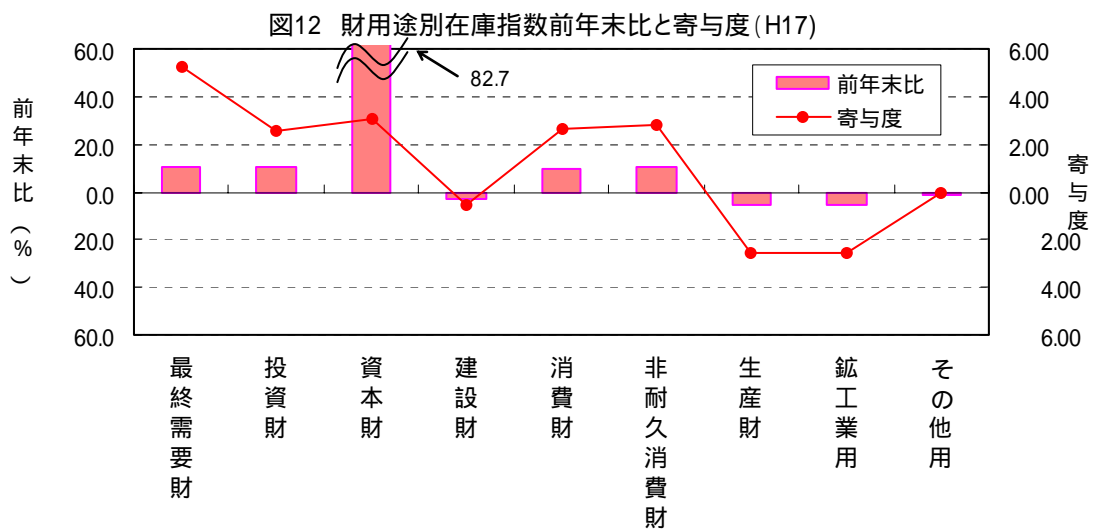
	業 種	寄与度	主な増加品目	主な減少品目
上昇業種	化学工業	1.77	医薬品	医薬品原末・原液
	非鉄金属工業	1.41	電線ケーブル	アルミニウム圧延製品
	電気機械工業	1.13	回転・静止電気機器	その他電気機械
	一般機械工業	0.89	油圧機器	その他一般機械・部品
	プラスチック製品工業	0.59	日用品雑貨	フィルム・シート
	パルプ・紙・紙加工品工業	0.23	板紙	ダンボール・箱・袋
低下業種	繊維工業	0.78	化繊・紡績	織物
	食料品工業	0.75		飲料
	鉄鋼業	0.46	鋳鍛鋼品類	素製品(鋼半製品含)
	金属製品工業	0.44		金属製建具
	輸送機械工業	0.35	二輪自動車部品	自動車部品
	その他の工業	0.28	精密機械工業	その他製品工業
	窯業・土石製品工業	0.06	セメント製品	炭素製品



財用途別在庫指数（原指数）の前年末比は、資本財 82.7%、建設財 2.7%、非耐久消費財 10.4%、生産財 5.3%となり、資本財と非耐久消費財が全体の上昇に大きく影響している（表8、図12）。

表8 在庫指数(財用途分類・年末) 平成12年=100

	ウェイト (万分比)	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%point)
		16年	17年		
鉱工業	10,000.0	93.7	96.1	2.6	2.56
最終需要財	5,433.0	88.4	97.4	10.2	5.22
投資財	2,926.3	78.1	86.3	10.5	2.56
資本財	627.1	56.0	102.3	82.7	3.10
建設財	2,299.2	84.2	81.9	2.7	0.56
消費財	2,506.7	100.3	110.3	10.0	2.68
耐久消費財	22.3	38.2	-	-	-
非耐久消費財	2,484.4	100.8	111.3	10.4	2.78
生産財	4,567.0	100.0	94.7	5.3	2.58
鉱工業用生産財	4,369.0	98.5	93.0	5.6	2.56
その他用生産財	198.0	133.4	132.2	0.9	0.03



(3) 在庫循環

富山県の在庫循環図をみると、平成13年 期～ 期にはおおむね「在庫積み上がり局面」に推移していた。その後、平成13年 期～平成14年 期の「在庫調整局面」、「在庫減少局面」を経て、平成14年 期～平成15年 期には「在庫積み増し局面」に移り、平成15年 期～平成16年 期は「在庫積み上がり局面」に入った。しかし、平成16年 期～ 期にはふたたび「在庫積み増し局面」へ、 期では「在庫減少局面」へ、平成17年 期では「在庫調整局面」へと戻り、 期の「在庫減少局面」と「在庫積み増し局面」の境目付近を経て、 期には、「在庫調整局面」、 期では「在庫積み増し局面」へ移動した。

また、**全国の在庫循環図**をみると、平成13年から平成15年 期は、おおむね中心点（グラフ推移の大きな中心）が、生産及び在庫の前年同期比のゼロの位置より左下方にシフトした循環を描いており、平成15年 期～平成16年 期にかけては「在庫積み増し局面」に、平成17年 期～ 期は「在庫積み上がり

〔在庫循環図について〕

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環（Inventory Cycle）と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図（生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の4局面）として示すことができ、「在庫積み増し局面」、「在庫積み上がり局面」、「在庫調整局面」、「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起こり、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある（傾向変動を除去した場合）。

なお、過去の分析から、ほぼ40ヵ月（3～4年）の循環を示すことが多く、「キッチンの波」（Kitchen）が分析したもの）とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、以下のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す（図 b1,b2）。

「在庫積み上がり局面」

景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる（意図せざる在庫投資、図 c1,c2）。

「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる（図 d1,d2）。

「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する（意図せざる在庫減局面、図 a1,a2）。

図13 富山県の在庫循環推移

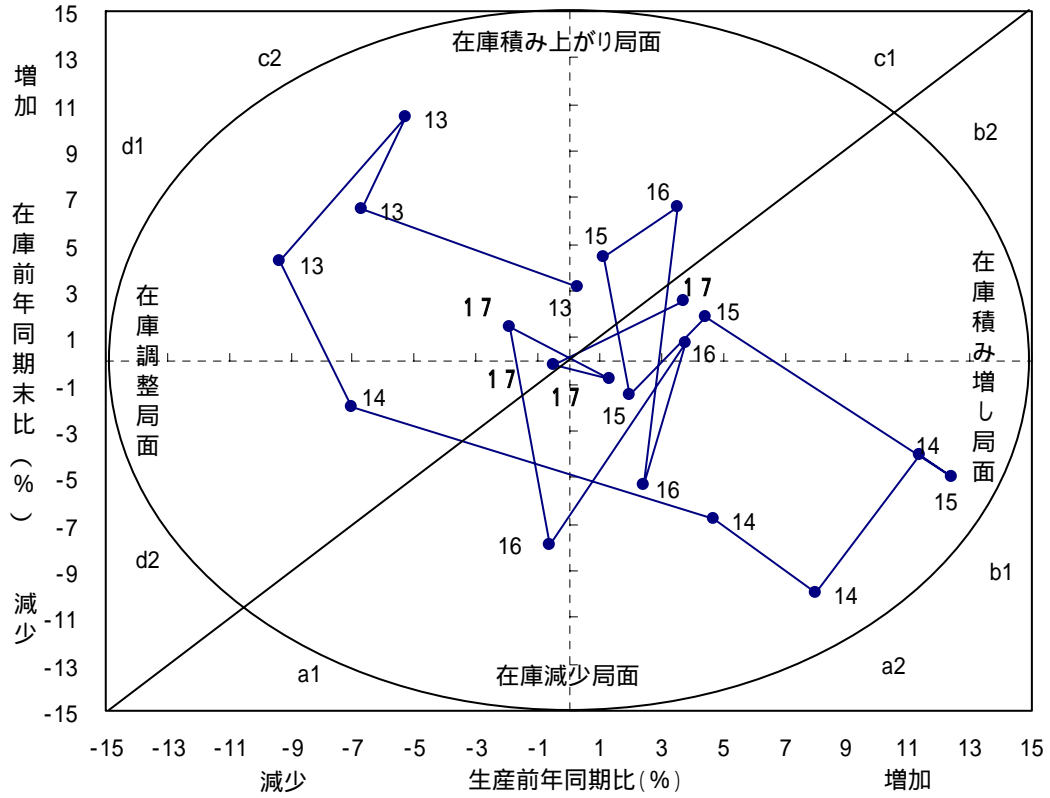
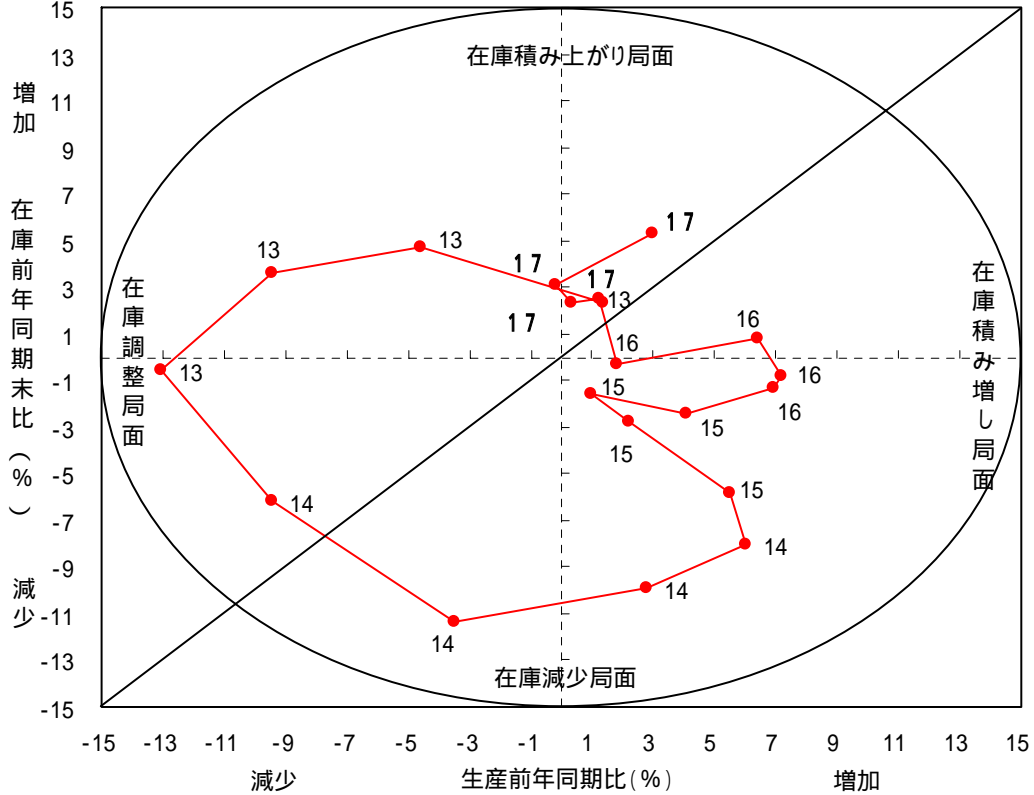


図14 全国の在庫循環推移



2 業種別動向

(1) 鉄鋼業

概況

生産指数は前年比 10.5% (寄与度 0.25) 上昇の 108.8 となり、3 年連続で上昇した。これは、3 品目 (素製品 (鋼半製品含) 熱間圧延鋼材、鑄鍛鋼品類) すべてが増加したことによる (表 1)。

在庫指数は前年末比 6.9% (寄与度 0.46) 低下の 94.5 となり、2 年連続で低下した。これは 3 品目中、2 品目 (鑄鍛工品類など) が増加したものの、ウェイトが高く影響の大きい 1 品目 (素製品 (鋼半製品含)) が減少したことによる (表 1)。

全体として、生産は上昇し、在庫は低下した (表 1・図 1・2)。

表1 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
鉄鋼業	255.4	98.5	108.8	10.5	0.25	613.0	101.5	94.5	6.9	0.46
素製品(鋼半製品含)	30.2	92.2	103.9	12.7	0.03	436.1	106.5	88.2	17.2	0.85
熱間圧延鋼材	48.3	85.2	87.8	3.1	0.01	61.9	79.0	88.1	11.5	0.06
鑄鍛鋼品類	176.9	103.2	115.4	11.8	0.20	115.0	94.3	121.6	29.0	0.34

平成12年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図1 鉄鋼業 月別季節調整済指数(平成12年 = 100)

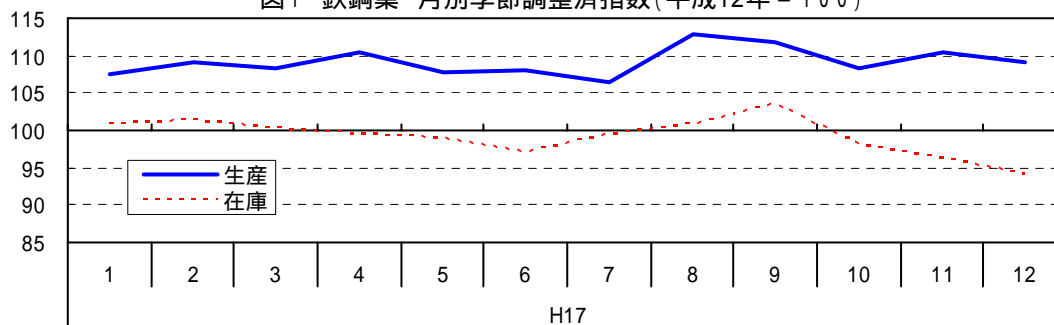
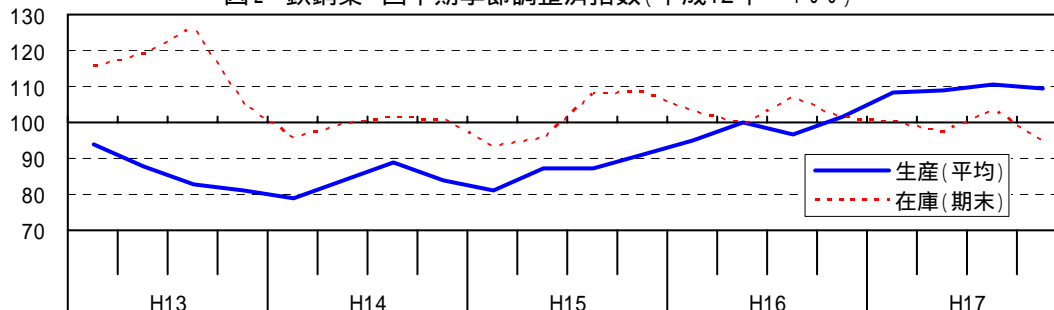


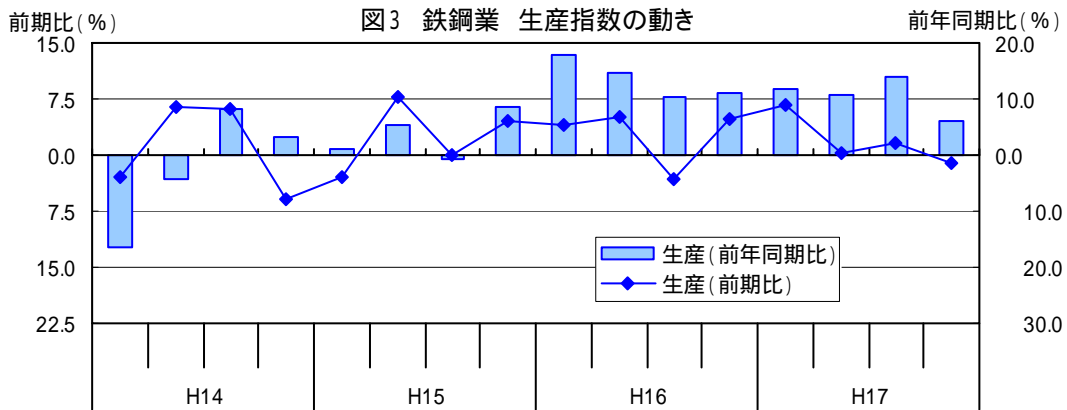
図2 鉄鋼業 四半期季節調整済指数(平成12年 = 100)



生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、1期 6.7%、2期 0.4%、3期 1.5%と平成16年 1期以降4期連続で上昇したが、4期に 1.0%と低下した。

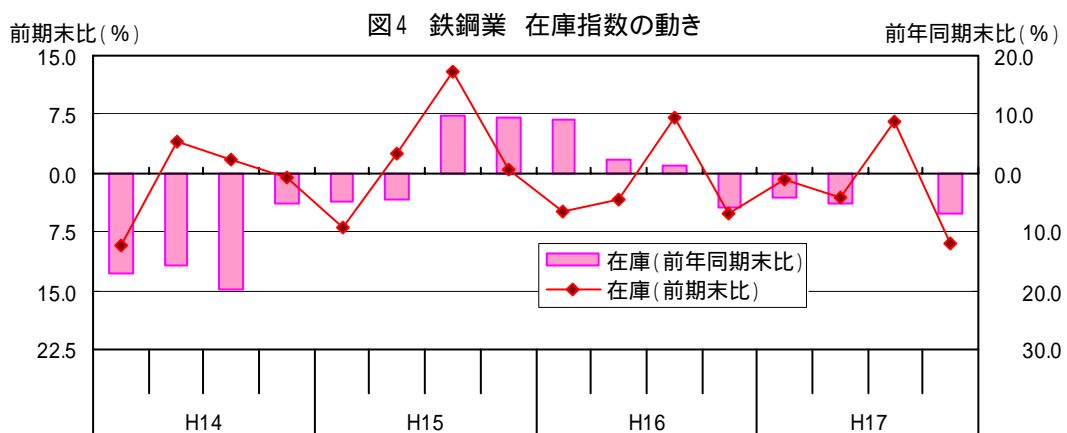
また、前年同期比（原指数）は、1期 11.9%、2期 10.7%、3期 13.8%、4期 6.0%と15年 1期以降9期連続で前年を上回った（図3）。



在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、1期で 0.9%、2期で 3.1%低下し、3期では 6.7%上昇したが、4期には 9.1%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、1期 4.1%、2期 5.3%、3期 0.2%、4期 6.9%と16年 1期以降5期連続で前年を下回った（図4）。



(2) 非鉄金属工業

概況

生産指数は前年比 2.5% (寄与度 0.14) 上昇の 118.5 となり、4 年連続で上昇した。これは 7 品目中、5 品目 (アルミニウム二次精錬、非鉄金属地金、電線ケーブル、非鉄金属鋳物、その他非鉄金属製品) が増加し、2 品目 (伸銅製品、アルミニウム圧延製品) が減少したことによる (表 2)。

在庫指数は前年末比 26.7% (寄与度 1.41) 上昇の 107.7 となり、2 年ぶりに上昇した。これは 6 品目中、4 品目 (電線ケーブルなど) が増加し、2 品目 (アルミニウム圧延製品など) が減少したことによる (表 2)。

全体として、生産は上昇し、在庫も大きく上昇している (表 2・図 5・6)。

表 2 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年比末 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
非鉄金属工業	527.4	115.6	118.5	2.5	0.14	580.4	85.0	107.7	26.7	1.41
アルミニウム二次精錬	69.0	128.4	140.1	9.1	0.08	107.0	111.4	152.6	37.0	0.47
非鉄金属地金	19.2	101.3	102.9	1.6	0.00	13.7	101.7	101.8	0.1	0.00
伸銅製品	31.8	112.5	106.8	5.1	0.02	31.4	296.4	251.6	15.1	0.15
アルミニウム圧延製品	188.8	111.0	110.8	0.2	0.00	248.4	76.9	69.0	10.3	0.21
電線ケーブル	45.9	104.4	108.5	3.9	0.02	177.9	41.6	109.7	163.7	1.29
非鉄金属鋳物	163.2	118.7	121.9	2.7	0.05	-	-	-	-	-
その他非鉄金属製品	9.5	153.2	176.1	14.9	0.02	2.0	98.5	113.0	14.7	0.00

平成12年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図 5 非鉄金属工業 月別季節調整済指数(平成12年 = 100)

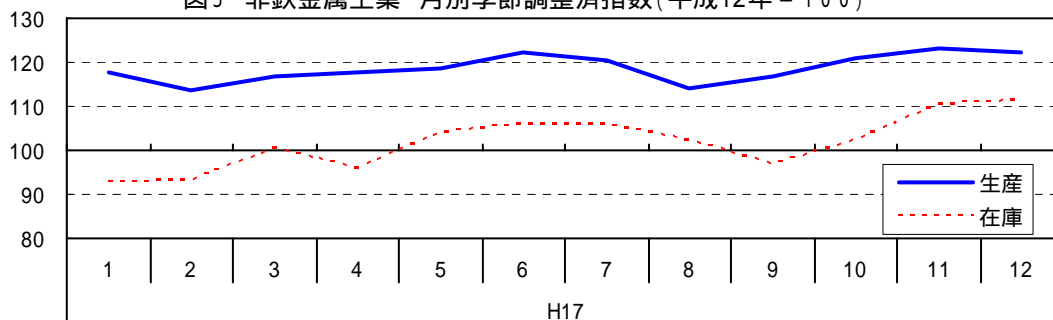
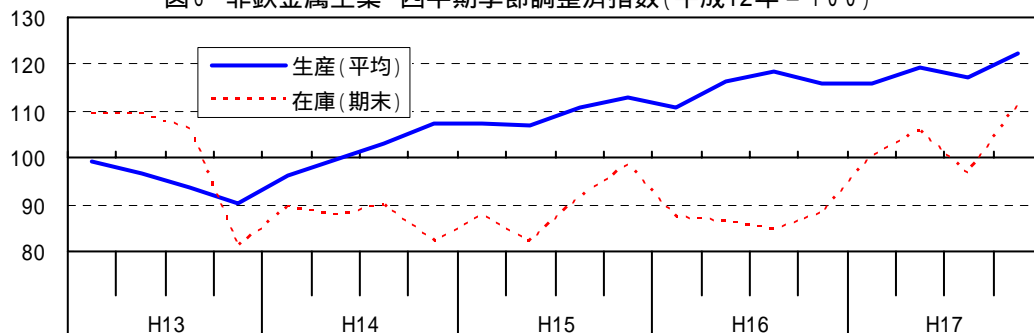


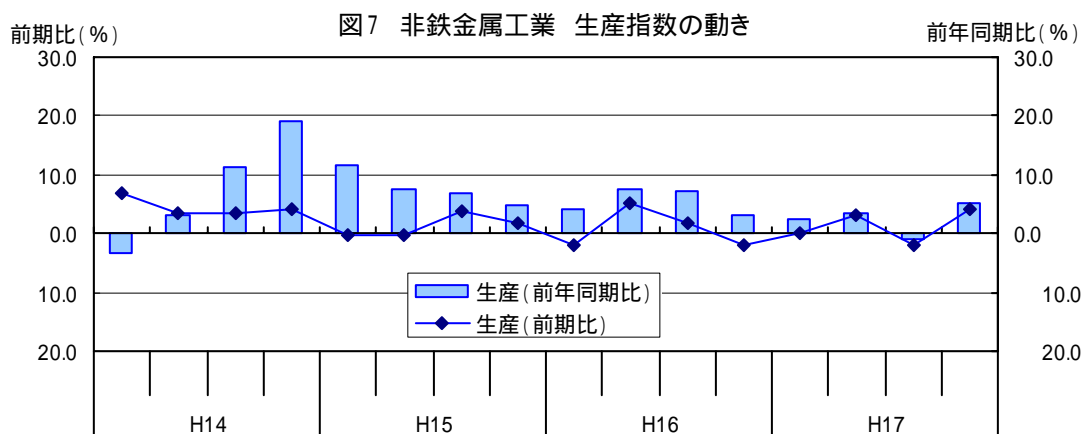
図 6 非鉄金属工業 四半期季節調整済指数(平成12年 = 100)



生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、1期は0.0%と横ばい、2期は3.0%と上昇し、3期では1.9%と低下したが、4期は4.2%と再び上昇した。

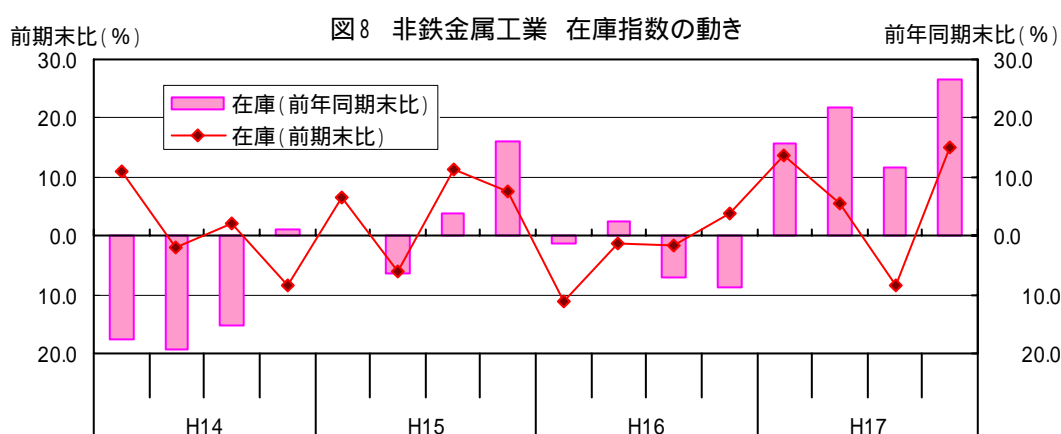
また、前年同期比(原指数)は、1期2.3%、2期3.3%、と平成14年1期以降13期連続で前年を上回っていたが、3期は0.8%前年を下回り、4期では5.3%と再び前年を上回った。(図7)



在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、1期で13.8%、2期で5.5%上昇し、3期では8.6%低下したが、4期は15.1%と再び上昇した。

また、前年同期末比(原指数)は、1期は15.8%、2期22.0%、3期は11.7%、4期26.7%と4期連続で前年を上回った。(図8)



(3) 金属製品工業

概況

生産指数は前年比 1.1%(寄与度 0.18)低下の 91.9 となり、2年ぶりに低下した。これは4品目中、2品目(鉄構物、その他金属製品)が増加したものの、ウェイトが高く影響の大きい2品目(金属製建具、軽金属板製品)が減少したことによる(表3)。

在庫指数は前年末比 2.4%(寄与度 0.44)低下の 76.1 となり、2年連続で低下した。これは3品目すべてが減少したことによる。(表3)

全体として、生産、在庫ともに緩やかに低下した(表3・図9・10)。

表3 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年比末 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
金属製品工業	1911.2	92.9	91.9	1.1	0.18	2,190.9	78.0	76.1	2.4	0.44
鉄構物	140.9	54.4	56.8	4.4	0.03	-	-	-	-	-
金属製建具	1212.5	96.7	91.6	5.3	0.59	1,963.6	80.0	78.0	2.5	0.42
軽金属板製品	375.0	55.2	41.0	25.7	0.50	216.4	59.0	57.6	2.4	0.03
その他金属製品	182.8	174.2	225.6	29.5	0.89	10.9	105.6	87.0	17.6	0.02

平成12年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図9 金属製品工業 月別季節調整済指数(平成12年=100)

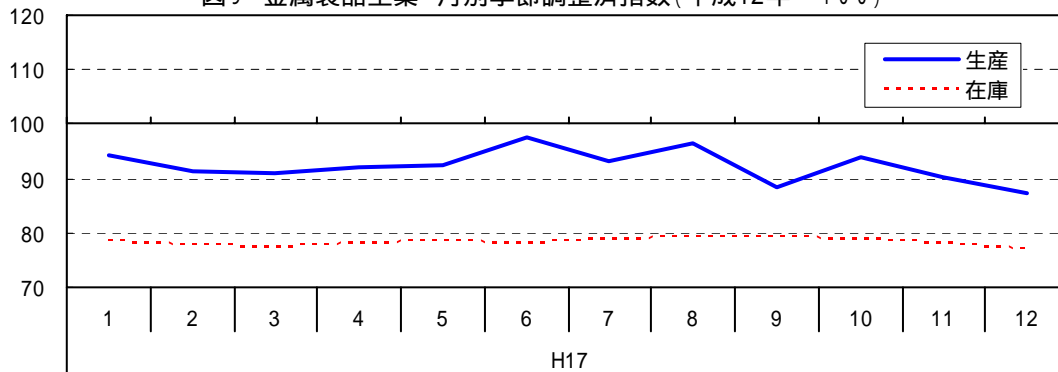
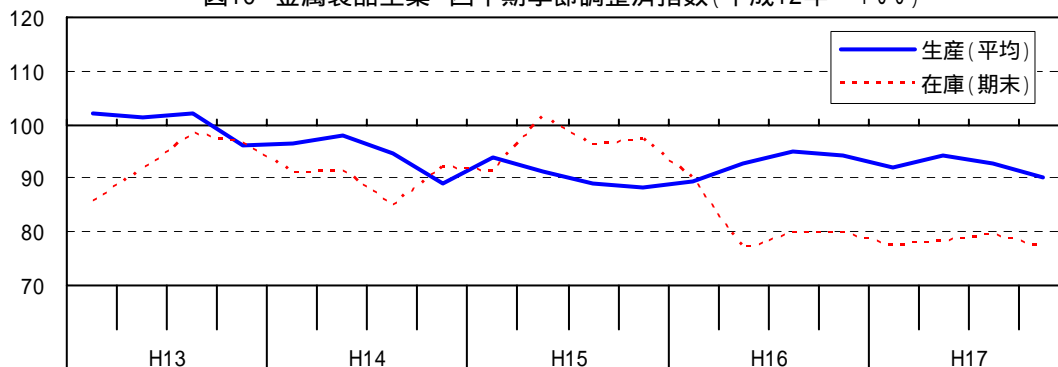


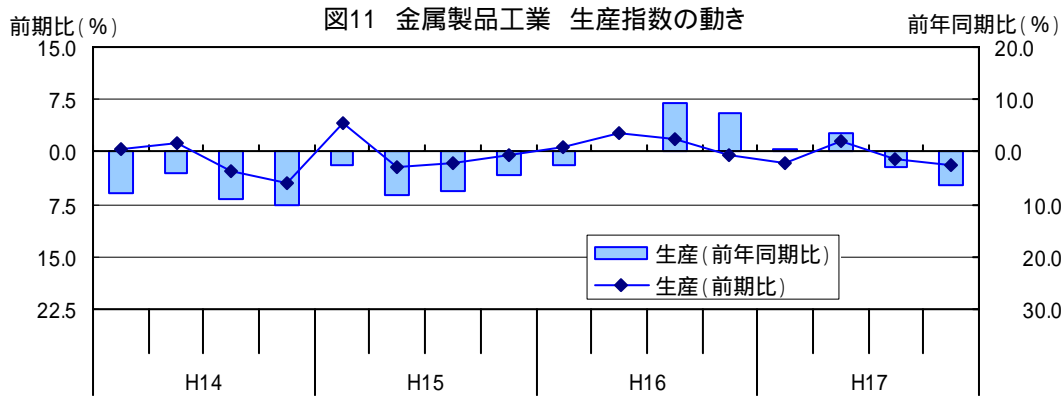
図10 金属製品工業 四半期季節調整済指数(平成12年=100)



生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、1期は2.3%低下し、2期には2.1%上昇したが、3期1.5%、4期2.6%と2期連続で低下した。

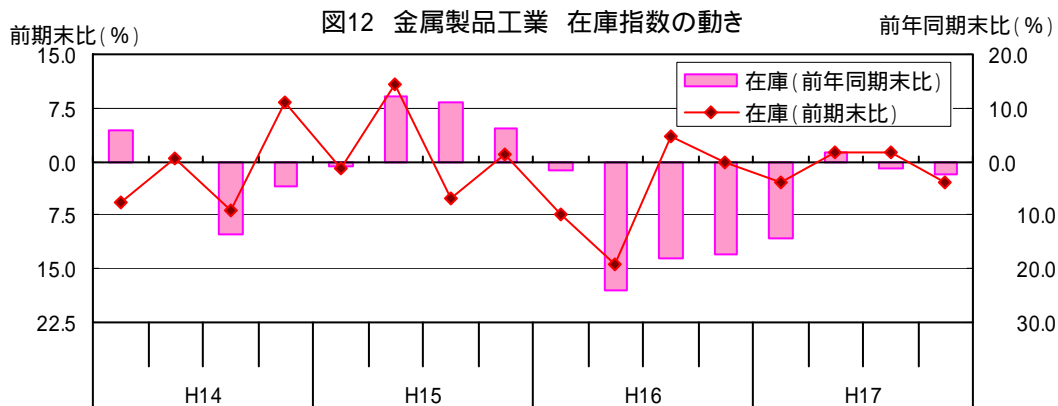
また、前年同期比(原指数)は、1期は0.3%、2期2.6%と平成16年1期以降5期連続で前年を上回ったが、3期2.1%、4期4.7%と2期連続で前年を下回った(図11)。



在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、1期は2.9%低下した後、2期1.2%、3期1.3%と2期連続で上昇したが、4期は2.8%と再び低下した。

また、前年同期末比(原指数)は、1期は14.3%と前年を下回り、2期では1.7%と前年を上回ったが、3期1.1%、4期2.4%と2期連続で前年を下回った(図12)。



(4) 一般機械工業

概況

生産指数は前年比 12.6% (寄与度 1.10) 上昇の 126.8 となり、3 年連続で上昇した。これは 7 品目 (油圧機器、軸受、産業機械・ロボット、金属工作機械、金型、機械工具、その他一般機械・部品) すべてが増加したことによる (表 4)。

在庫指数は前年末比 15.8% (寄与度 0.89) 上昇の 119.3 となり、2 年連続で上昇した。これは 5 品目中、4 品目 (油圧機械など) が増加し、1 品目 (その他一般機械・部品) が減少したことによる (表 4)。

全体として、生産、在庫ともに上昇した (表 4・図 13・14)。

表 4 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年比末 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
一般機械工業	819.7	112.6	126.8	12.6	1.10	513.7	103.0	119.3	15.8	0.89
油圧機器	113.5	99.6	115.5	16.0	0.17	60.2	59.1	128.9	118.1	0.45
軸受	172.7	93.1	101.0	8.5	0.13	219.5	119.1	129.6	8.8	0.25
産業機械・ロボット	224.5	126.4	131.8	4.3	0.11	-	-	-	-	-
金属工作機械	109.9	167.3	225.0	34.5	0.60	20.1	63.7	122.8	92.8	0.13
金型	40.2	77.7	91.1	17.2	0.05	-	-	-	-	-
機械工具	139.7	96.7	98.5	1.9	0.02	184.6	99.0	107.5	8.6	0.17
その他一般機械・部品	19.2	78.1	84.7	8.5	0.01	29.3	124.6	94.6	24.1	0.09

平成12年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図13 一般機械工業 月別季節調整済指数(平成12年=100)

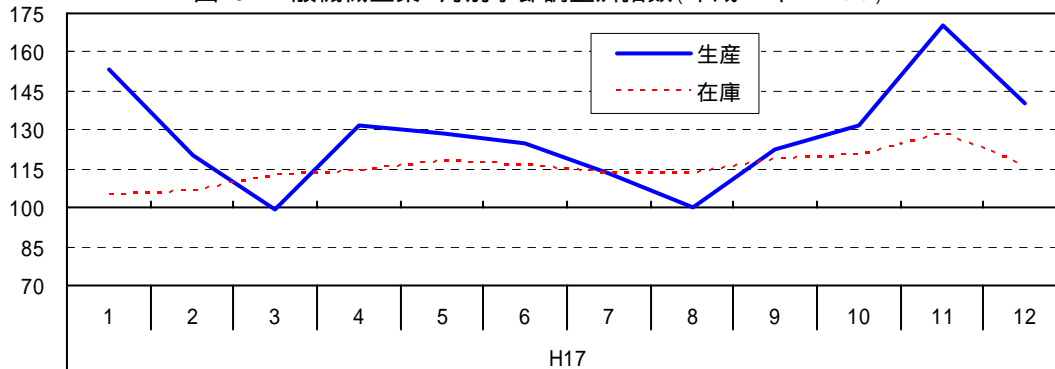
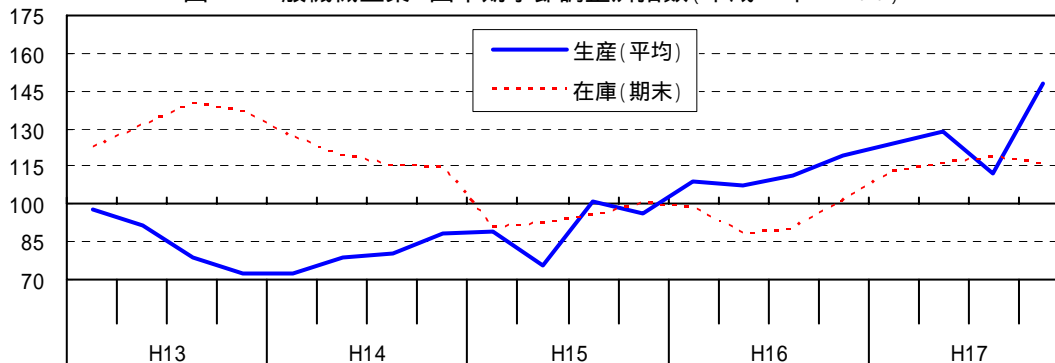


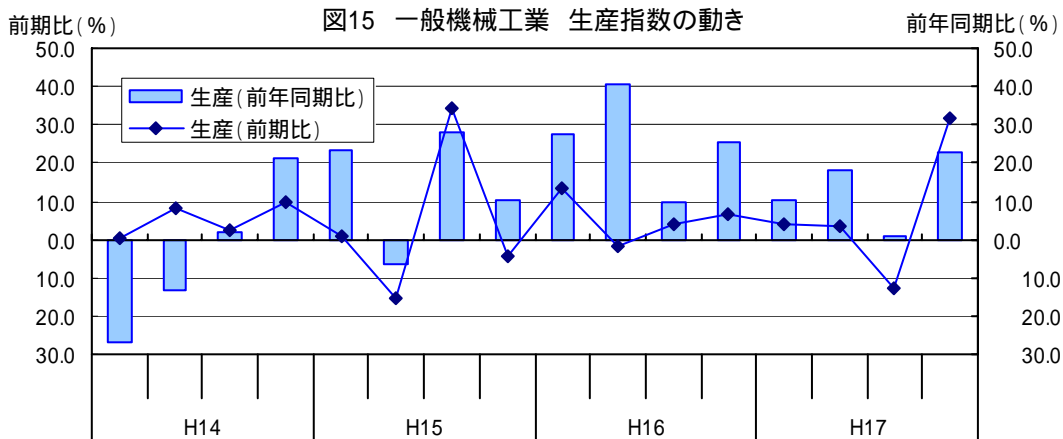
図14 一般機械工業 四半期季節調整済指数(平成12年=100)



生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、1期4.1%、2期3.5%と平成16年期以降4期連続で上昇したが、3期では12.8%低下し、4期では31.8%と再び大きく上昇した。

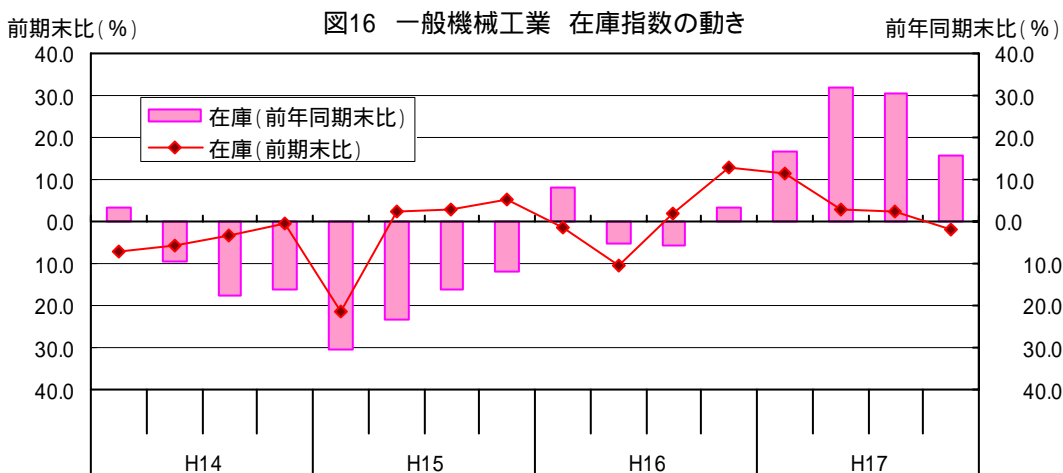
また、前年同期比(原指数)は、1期10.5%、2期18.1%、3期0.6%、4期22.6%と15年3期以降10期連続で前年を上回った(図15)。



在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、1期11.2%、2期2.9%、3期2.3%と16年1期以降5期連続で上昇したが、4期は1.9%と低下した。

また、前年同期末比(原指数)は、1期16.5%、2期32.1%、3期30.5%、4期15.8%と16年1期以降5期連続で前年を上回った(図16)。



(5) 電気機械工業

概況

生産指数は前年比 1.8% (寄与度 0.37) 低下の 131.9 となり、2年連続で低下した。これは7品目中、5品目(配電盤、その他の電気機械、半導体、抵抗器、電子部品)が減少し、2品目(回転・静止電気機器、集積回路)が増加したことによる(表5)。

在庫指数は前年末比 78.4%(寄与度 1.13)上昇の 89.0 となり、4年ぶりに上昇した。これは、回転・静止電気機器が増加したことによる(表5)。

生産は昨年と比べて低下したものの、四半期の動きは上昇傾向にある。在庫は大きく上昇した(表5・図17・18)。

表5 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
電気機械工業	1631.2	134.3	131.9	1.8	0.37	270.1	49.9	89.0	78.4	1.13
回転・静止電気機器	95.9	114.1	125.2	9.7	0.10	239.7	52.7	100.3	90.3	1.22
配電盤	52.5	84.0	78.0	7.1	0.03	-	-	-	-	-
その他電気機械	58.6	82.0	67.4	17.8	0.08	22.3	38.2	-	-	-
半導体	105.0	74.5	66.5	10.7	0.08	-	-	-	-	-
集積回路	698.3	167.7	175.3	4.5	0.50	8.1	-	-	-	-
抵抗器	91.1	103.2	97.8	5.2	0.05	-	-	-	-	-
電子部品	529.8	121.8	107.3	11.9	0.73	-	-	-	-	-

平成12年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図17 電気機械工業 月別季節調整済指数(平成12年 = 100)

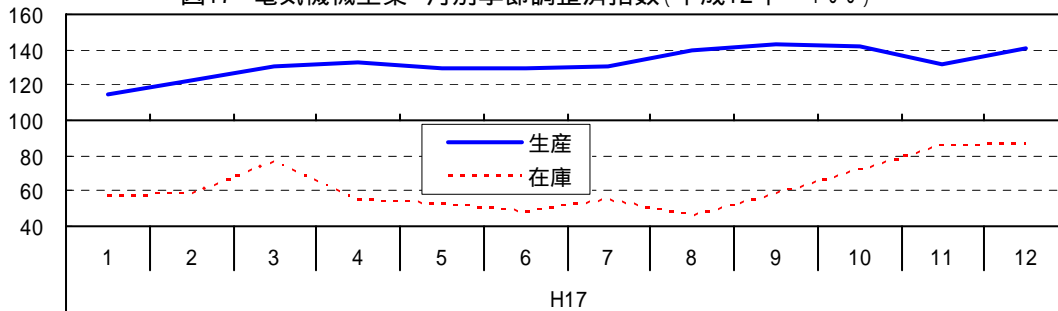
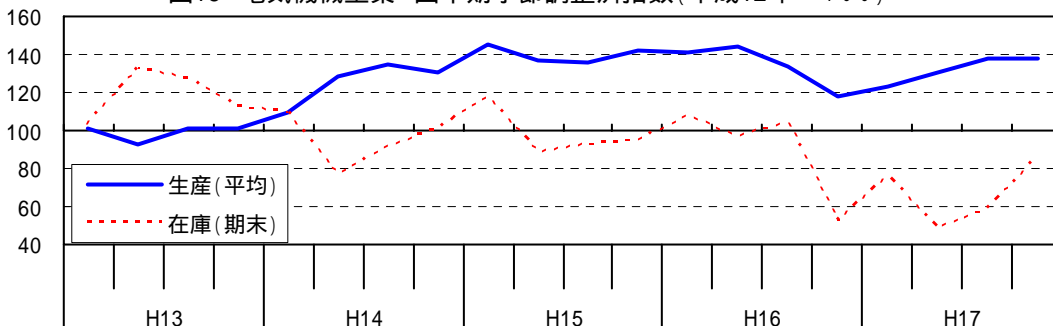


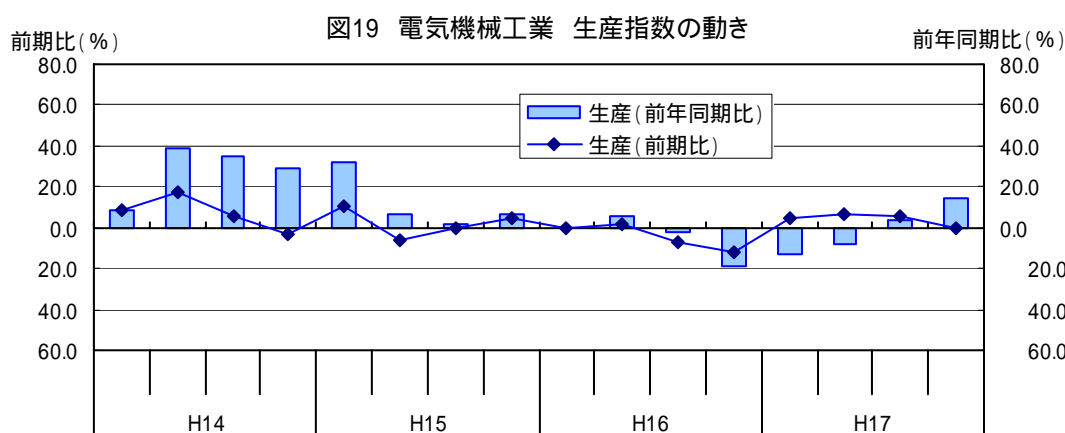
図18 電気機械工業 四半期季節調整済指数(平成12年 = 100)



生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、期 4.6%、期 6.3%、期 5.4%、期 0.2%と4期連続で上昇した。

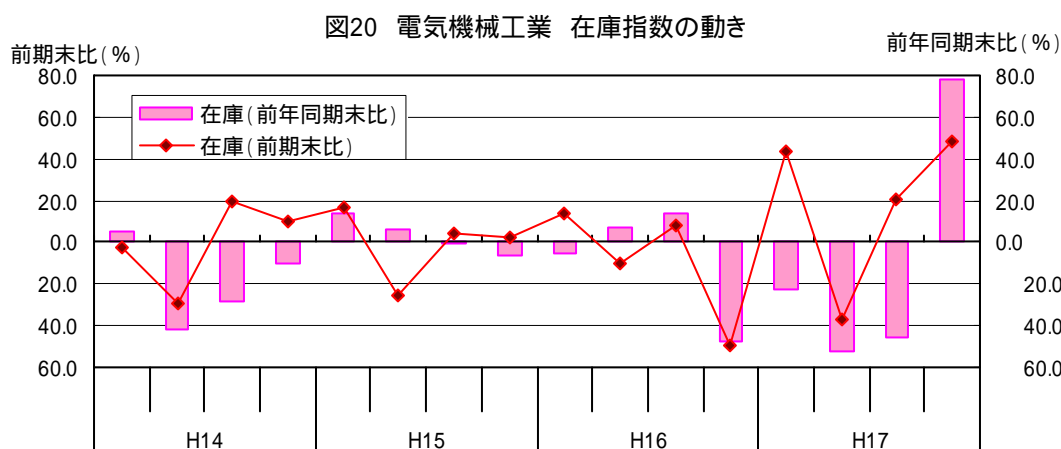
また、前年同期比(原指数)は、期は 13.3%、期 8.6%と平成16年期以降4期連続で前年を下回ったが、期 3.3%、期 14.1%と2期連続で前年を上回った(図19)。



在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、期は 43.7%と大きく上昇し、期には 36.6%と大きく低下したが、期 20.9%、期 48.4%と2期連続で大きく上昇した。

また、前年同期末比(原指数)では、期は 22.9%、期 52.1%、期 45.7%と16年期以降4期連続で前年を下回ったが、期には 78.4%と大きく前年を上回った(図20)。



(6) 輸送機械工業

概況

生産指数は前年比 0.1%(寄与度 0.00)低下の 99.6 となり、2年連続で低下した。これは3品目中、2品目(自動車部品、二輪自動車部品)が増加したものの、ウェイトが高く影響の大きい1品目(自動車ボデー)が減少したことによる(表6)。

在庫指数は前年末比 25.1%(寄与度 0.35)低下の 88.7 となり、2年ぶりに低下した。これは2品目中、1品目(二輪自動車部品)が増加したものの、ウェイトが高く影響の大きい1品目(自動車部品)が減少したことによる(表6)。

生産は昨年と比べて低下したものの、四半期の動きは上昇傾向にある。在庫は低下している(表6・図21・22)。

表6 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成12年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
輸送機械工業	142.9	99.7	99.6	0.1	0.00	111.9	118.4	88.7	25.1	0.35
自動車ボデー	102.7	100.5	96.3	4.2	0.04	-	-	-	-	-
自動車部品	27.9	104.1	117.8	13.2	0.04	89.1	133.6	91.3	31.7	0.40
二輪自動車部品	12.3	83.6	85.6	2.4	0.00	22.8	59.2	78.5	32.6	0.05

寄与度は鉱工業に対する数値

図21 輸送機械工業 月別季節調整済指数(平成12年=100)

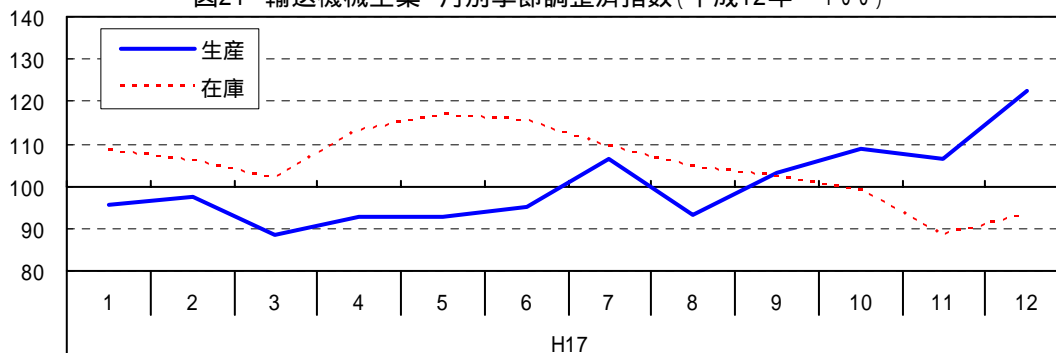
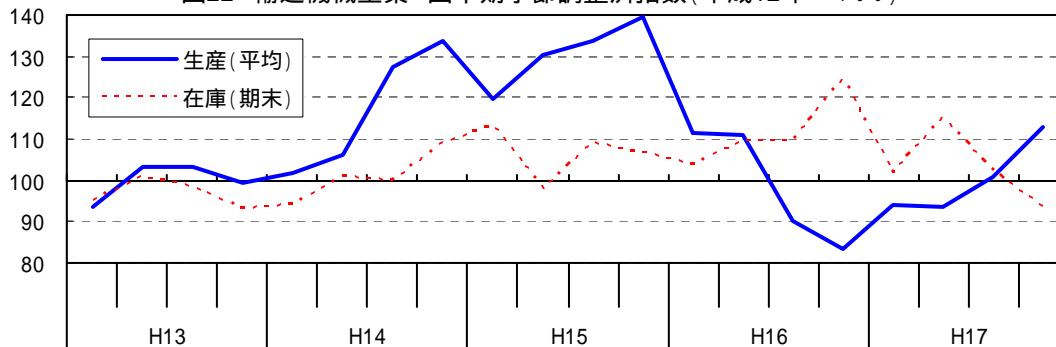


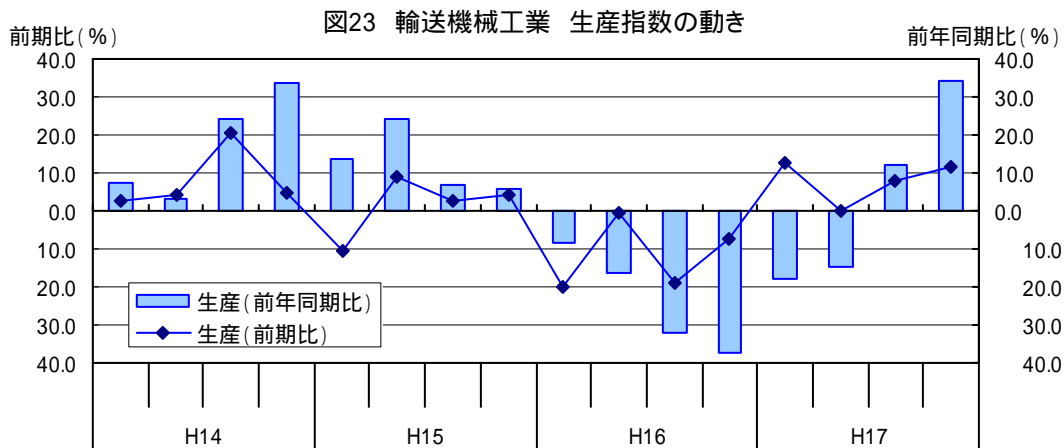
図22 輸送機械工業 四半期季節調整済指数(平成12年=100)



生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、1期は12.7%上昇し、2期には0.2%低下したが、3期7.9%、4期11.6%と2期連続で上昇した。

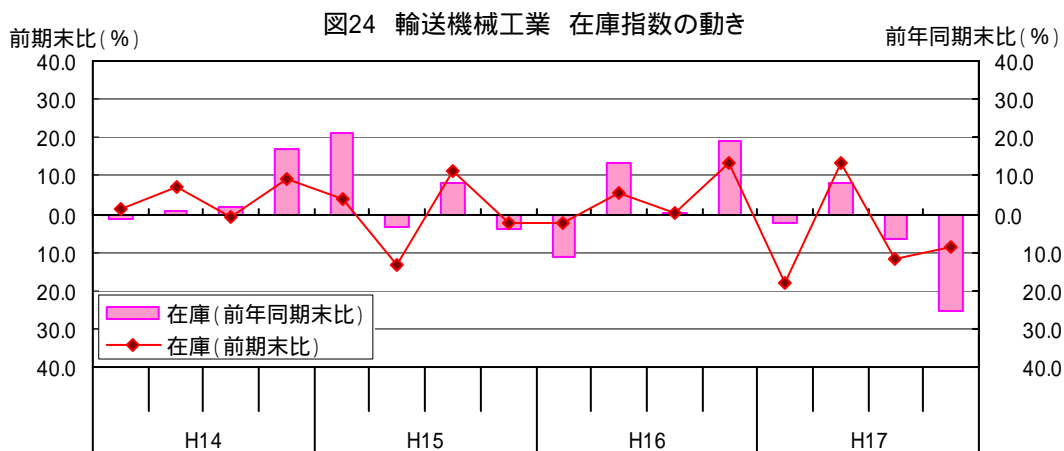
また、前年同期比(原指数)は、1期は17.7%、2期14.7%と平成16年1期以降6期連続で前年を下回ったが、3期12.0%、4期34.3%と2期連続で前年を上回った(図23)。



在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、1期は18.1%低下し、2期には13.3%上昇したが、3期11.6%、4期8.5%と2期連続で低下した。

また、前年同期末比(原指数)は、1期は2.4%と前年を下回り、2期には8.1%と前年を上回ったが、3期6.6%、4期25.1%と2期連続で前年を下回った。(図24)。



(7) 窯業・土石製品工業

概況

生産指数は前年比 6.3% (寄与度 0.13) 上昇の 85.7 となり、6 年ぶりに上昇した。これは 5 品目中、4 品目 (ガラス製品、生コンクリート、セメント製品、炭素製品) が増加し、1 品目 (その他窯業・土石製品) が減少したことによる (表 7)。

在庫指数は前年末比 2.0% (寄与度 0.06) 低下の 81.5 となり、2 年連続で低下した。これは 4 品目中、3 品目 (炭素製品など) が減少し、1 品目 (セメント製品) が増加したことによる (表 7)。

全体として、生産は上昇し、在庫は低下した (表 7・図 25・26)。

表7 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年比末 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
窯業・土石製品工業	266.6	80.6	85.7	6.3	0.13	323.2	83.2	81.5	2.0	0.06
ガラス製品	45.9	96.9	116.9	20.6	0.09	15.8	90.7	88.6	2.3	0.00
生コンクリート	120.7	72.8	77.0	5.8	0.05	-	-	-	-	-
セメント製品	23.5	58.0	59.6	2.8	0.00	89.2	54.3	60.0	10.5	0.05
炭素製品	42.8	100.2	104.6	4.4	0.02	72.9	53.7	41.9	22.0	0.09
その他窯業・土石製品	33.7	77.3	68.7	11.1	0.03	145.3	115.0	113.7	1.1	0.02

平成12年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図25 窯業・土石製品工業 月別季節調整済指数(平成12年 = 100)

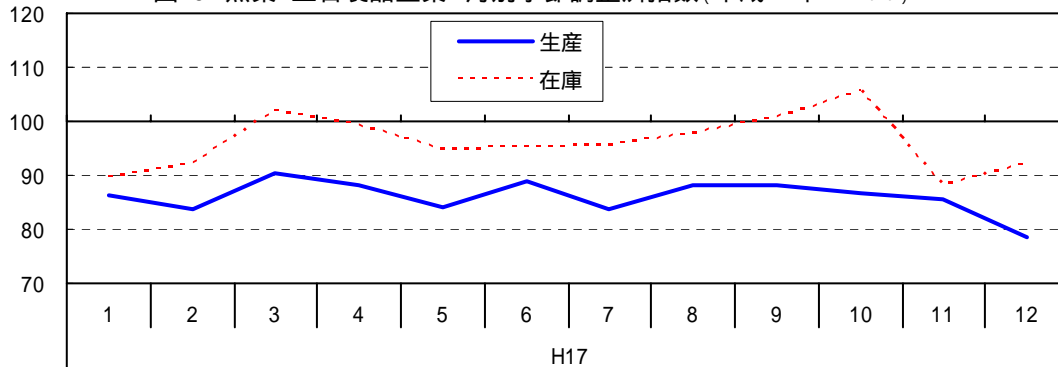
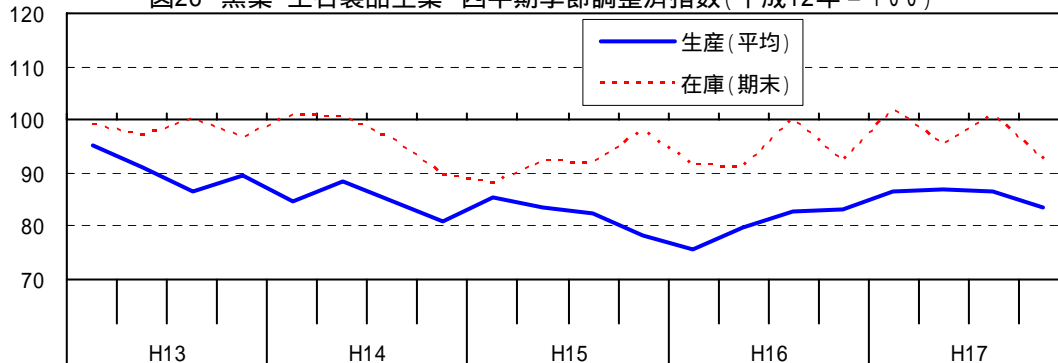


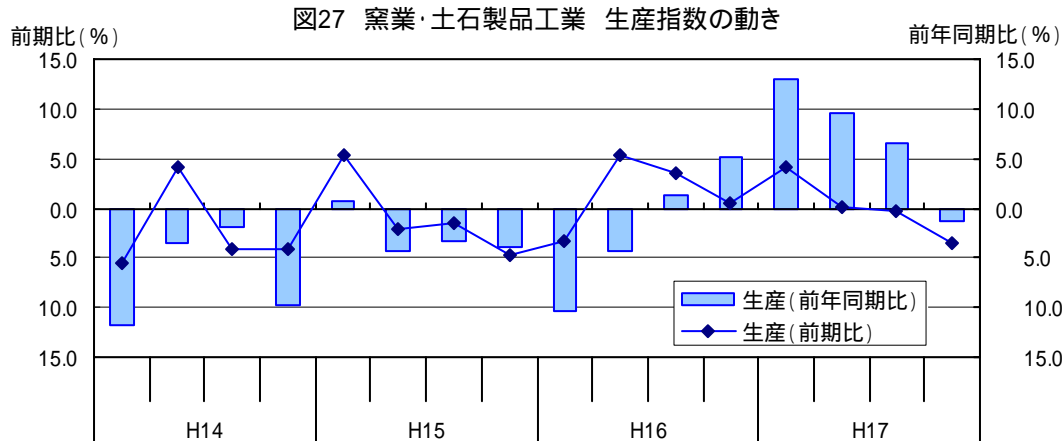
図26 窯業・土石製品工業 四半期季節調整済指数(平成12年 = 100)



生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、1期 4.2%、2期 0.2%と平成16年期以降5期連続で上昇したが、3期 0.3%、4期 3.5%と2期連続で低下した。

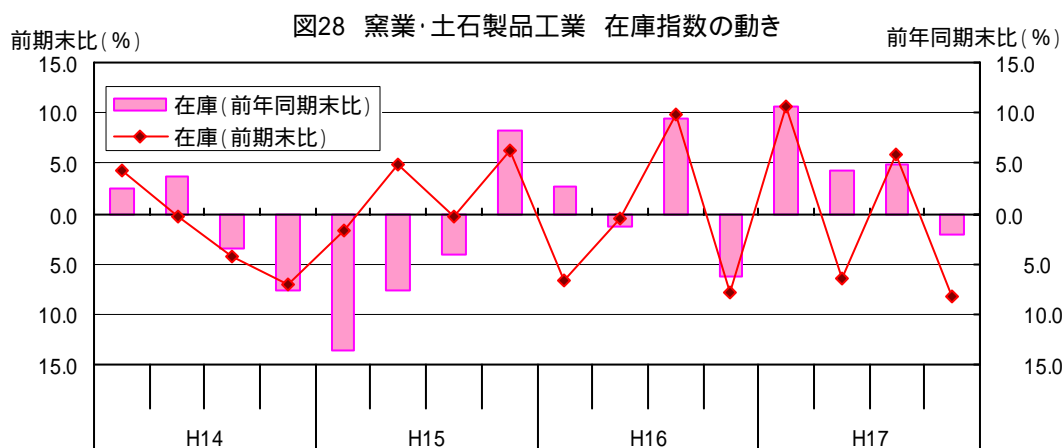
また、前年同期比（原指数）は、1期 12.9%、2期 9.6%、3期 6.5%と16年期以降5期連続で前年を上回ったが、4期は 1.4%と前年を下回った（図27）。



在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、1期は 10.7%上昇し、2期で 6.4%低下したが、3期には 5.8%と再び上昇し、4期は 8.3%低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、1期 10.7%、2期 4.2%、3期 4.9%と3期連続で前年を上回ったが、4期は 2.0%と前年を下回った（図28）。



(8) 化学工業

概 況

生産指数は前年比 0.7%(寄与度 0.15)低下の 111.5 となり、4 年ぶりに低下した。これは 9 品目中、5 品目(無機化学製品、プラスチック樹脂、接着剤、医薬品原末・原液、医薬品)が減少し、4 品目(化学肥料、尿素、ソーダ工業品、その他化学製品)が増加したことによる(表 8)。

在庫指数は前年末比 6.8%(寄与度 1.77)上昇の 111.7 となり、2 年ぶりに上昇した。これは 9 品目中、7 品目(医薬品原末・原液など)が減少したものの、ウェイトが高く影響の大きい医薬品を含む、2 品目(その他化学製品など)が増加したことによる(表 8)。

全体として、生産はおおむね横ばい、在庫は上昇した(表 8・図 29・30)。

表 8 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成12年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年比末 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
化学工業	1946.3	112.3	111.5	0.7	0.15	2,329.6	104.6	111.7	6.8	1.77
化学肥料	174.9	99.0	102.9	3.9	0.06	100.4	151.2	145.3	3.9	0.06
尿素	119.6	101.5	107.5	5.9	0.07	14.4	148.1	53.9	63.6	0.14
ソーダ工業品	30.8	77.5	80.4	3.7	0.01	5.9	65.8	58.6	10.9	0.00
無機化学製品	64.0	85.3	71.1	16.6	0.09	31.5	102.8	93.8	8.8	0.03
プラスチック樹脂	156.3	106.5	104.3	2.1	0.03	267.4	69.4	66.7	3.9	0.08
その他化学製品	103.3	102.1	103.5	1.4	0.01	137.2	91.5	117.9	28.9	0.39
接着剤	59.9	101.2	94.3	6.8	0.04	139.6	76.2	61.5	19.3	0.22
医薬品原末・原液	54.7	128.5	125.0	2.7	0.02	254.8	135.1	76.7	43.2	1.59
医薬品	1302.4	117.6	117.2	0.3	0.05	1,392.8	106.7	129.3	21.2	3.36

寄与度は鉱工業に対する数値

図29 化学工業 月別季節調整済指数(平成12年 = 100)

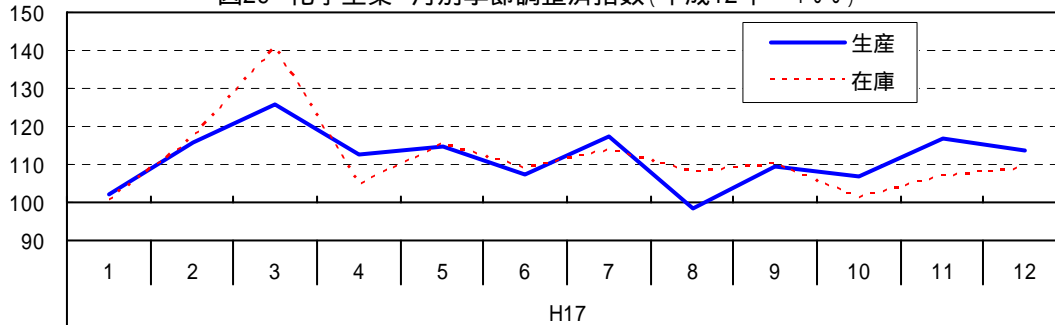
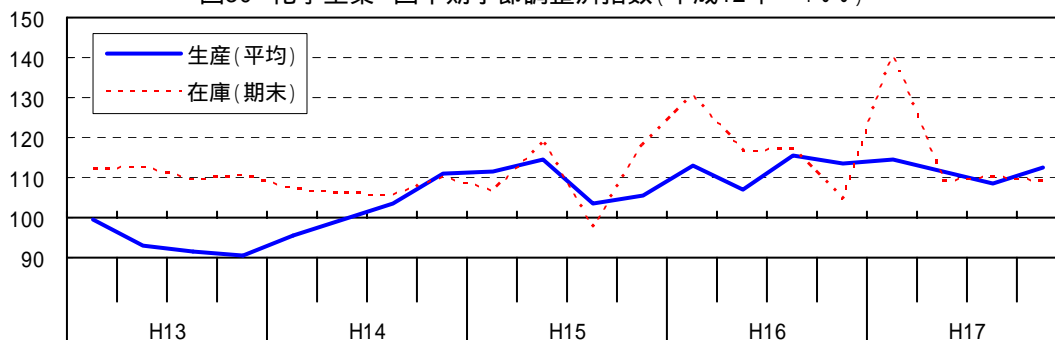


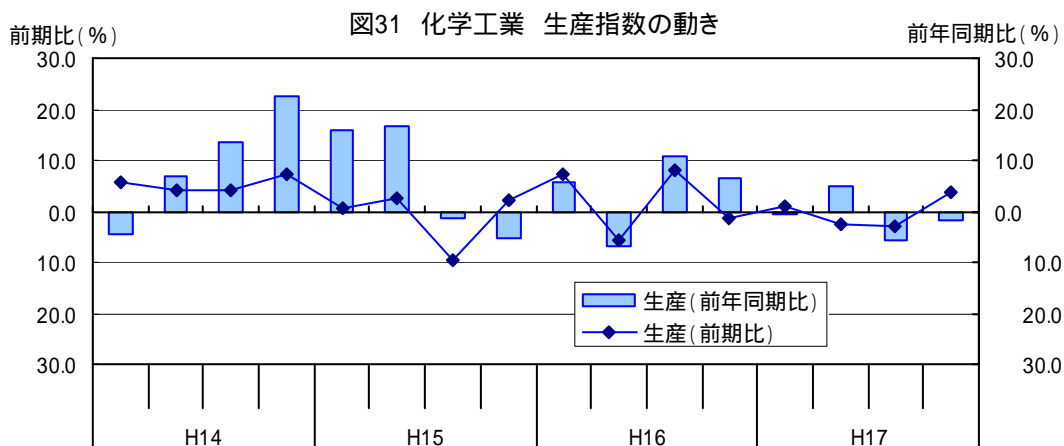
図30 化学工業 四半期季節調整済指数(平成12年 = 100)



生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、1期は0.8%上昇し、2期 2.5%、3期 2.8%と2期連続で低下したが、4期は3.7%と再び上昇した。

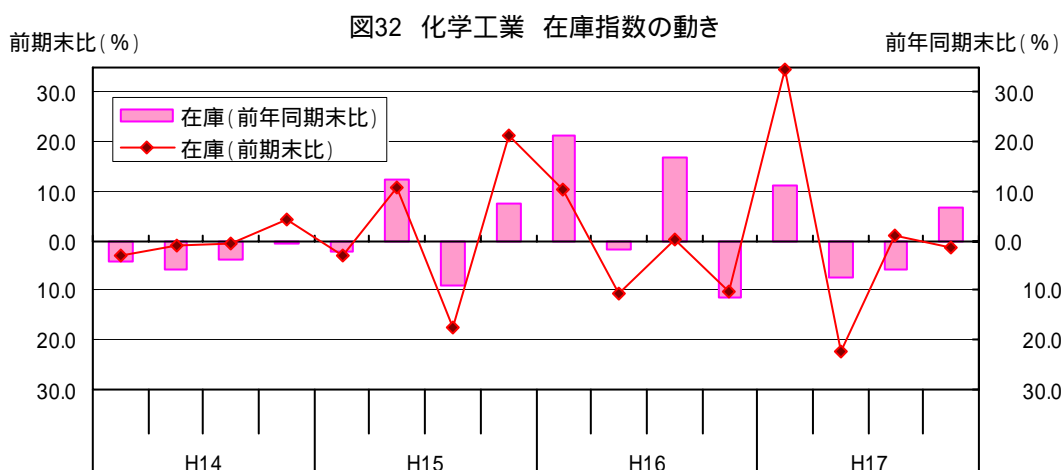
また、前年同期比（原指数）は、1期は0.7%低下し、2期には5.0%上昇したが、3期 5.5%、4期 1.6%と2期連続で低下した。（図31）



在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、1期は34.4%上昇し、2期で22.5%低下したが、3期には1.0%と再び上昇し、4期は1.2%低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、1期は11.1%前年を上回り、2期で7.5%、3期で5.9%前年を下回ったが、4期で再び6.8%前年を上回った。（図32）



(9) プラスチック製品工業

概況

生産指数は前年比 5.7% (寄与度 0.29) 上昇の 109.4 となり、3 年連続で上昇した。これは 6 品目中、3 品目(フィルム・シート、日用品雑貨、建材・強化製品)が減少したものの、ウェイトが高く影響の大きい機械器具部品を含む、3 品目(機械器具部品、容器、その他プラスチック製品)が増加したことによる(表9)。

在庫指数は前年末比 7.9%(寄与度 0.59)上昇の 103.5 となり、4 年連続で上昇した。これは 6 品目中、3 品目(フィルム・シートなど)が減少したものの、ウェイトが高く影響の大きい日用品雑貨を含む、3 品目(その他プラスチック製品など)が増加したことによる(表9)。

全体として、生産、在庫ともに上昇した(表9・図33・34)。

表9 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年比末 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
プラスチック製品工業	520.3	103.5	109.4	5.7	0.29	731.2	95.9	103.5	7.9	0.59
フィルム・シート	52.9	75.6	69.8	7.7	0.03	175.8	41.7	26.0	37.6	0.29
機械器具部品	238.5	115.7	125.7	8.6	0.23	57.8	97.9	93.3	4.7	0.03
容器	39.7	148.9	156.7	5.2	0.03	51.1	145.0	189.9	31.0	0.24
日用品雑貨	84.4	81.4	81.1	0.4	0.00	227.6	120.0	139.9	16.6	0.48
建材・強化製品	20.9	54.2	44.0	18.8	0.02	38.7	42.4	33.6	20.8	0.04
その他プラスチック製品	83.9	99.5	110.7	11.3	0.09	180.2	115.1	127.1	10.4	0.23

寄与度は鉱工業に対する数値

図33 プラスチック製品工業 月別季節調整済指数(平成12年=100)

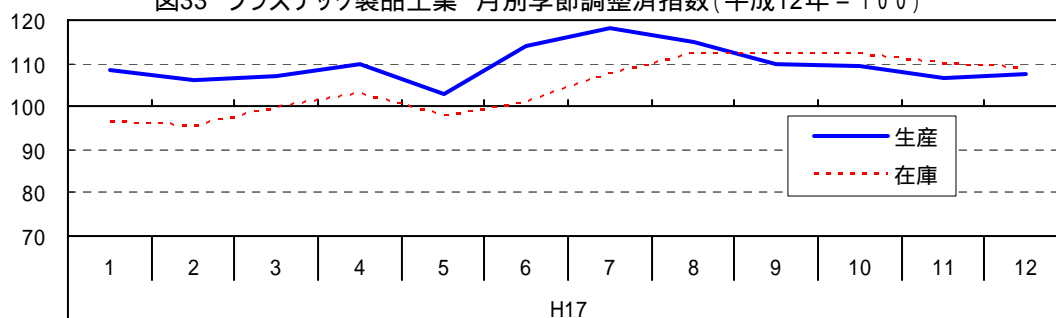
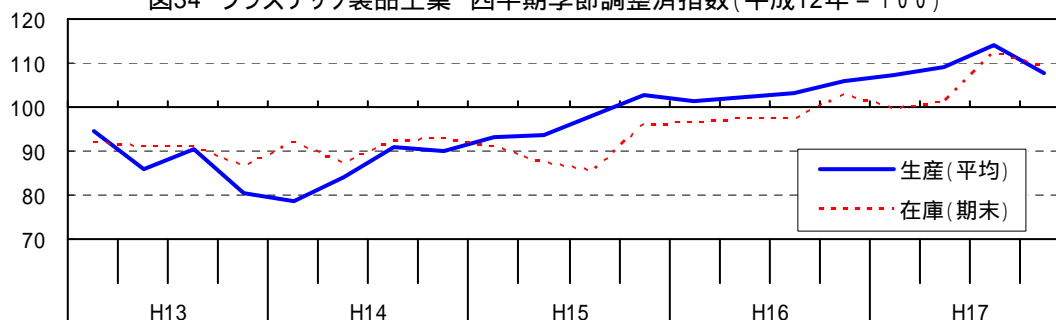


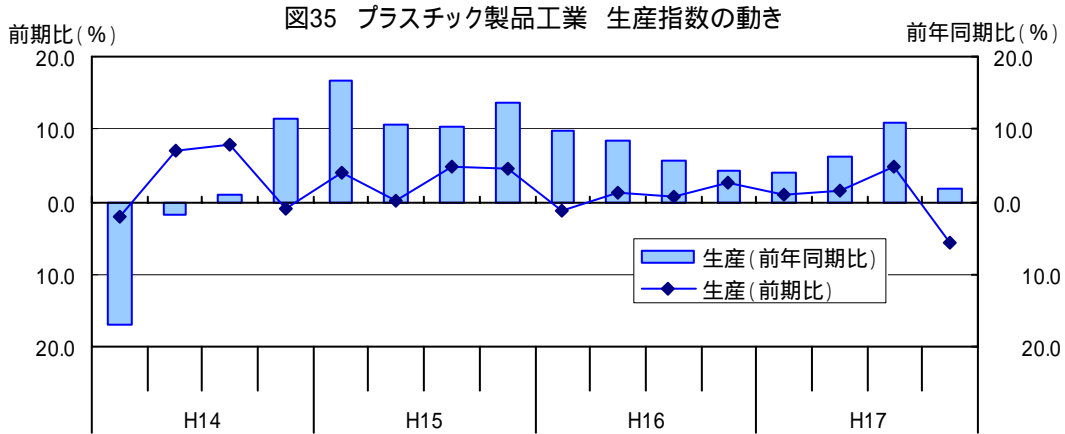
図34 プラスチック製品工業 四半期季節調整済指数(平成12年=100)



生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、1期 1.1%、2期 1.6%、3期 4.9%と平成16年 1期以降6期連続で上昇したが、4期では 5.6%と低下した。

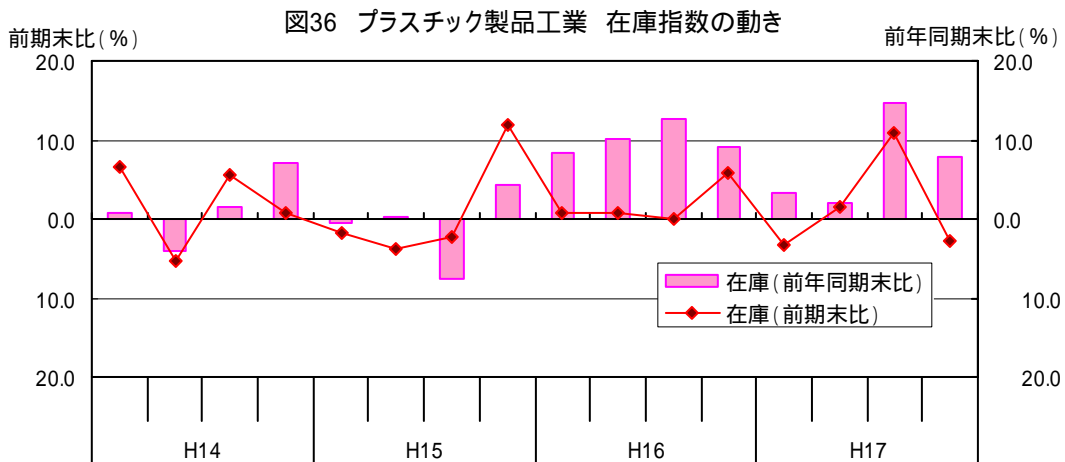
また、前年同期比（原指数）は、1期 4.0%、2期 6.2%、3期 10.9%、4期 1.8%と14年 1期以降14期連続で前年を上回った（図35）。



在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、1期は 3.3%低下し、2期 1.6%、3期 10.9%と2期連続で上昇したが、4期は 2.9%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、1期 3.4%、2期 2.1%、3期 14.7%、4期 7.9%と15年 1期以降9期連続で前年を上回った（図36）。



(10) パルプ・紙・紙加工品工業

概況

生産指数は前年比 0.7% (寄与度 0.03) 上昇の 94.1 となり、2 年連続で上昇した。これは 6 品目中、4 品目 (パルプ、紙、情報用紙、その他紙製品) が増加し、2 品目 (板紙、ダンボール・箱・袋) が減少したことによる (表 10)。

在庫指数は前年末比 3.5% (寄与度 0.23) 上昇の 120.1 となり、2 年ぶりに上昇した。これは 6 品目中、5 品目 (板紙など) が増加し、1 品目 (ダンボール・箱・袋) が減少したことによる (表 10)。

全体として、生産はおおむね横ばいで推移し、在庫は緩やかに上昇した (表 10・図 37・38)。

表10 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
パルプ・紙・紙加工品工業	526.5	93.4	94.1	0.7	0.03	533.1	116.0	120.1	3.5	0.23
パルプ	60.9	94.4	97.2	3.0	0.02	3.7	42.7	73.8	72.8	0.01
紙	242.0	93.2	94.2	1.1	0.02	392.6	115.4	117.2	1.6	0.08
情報用紙	24.0	50.3	61.3	21.9	0.03	34.8	83.0	103.4	24.6	0.08
板紙	43.8	104.5	102.8	1.6	0.01	54.8	121.9	149.3	22.5	0.16
ダンボール・箱・袋	155.4	89.6	89.5	0.1	0.00	63.5	90.6	79.6	12.1	0.07
その他紙製品	24.4	98.5	100.5	2.0	0.00	18.5	214.3	242.0	12.9	0.05

平成12年=100

寄与度は紙工業に対する数値

図37 パルプ・紙・紙加工品工業 月別季節調整済指数(平成12年 = 100)

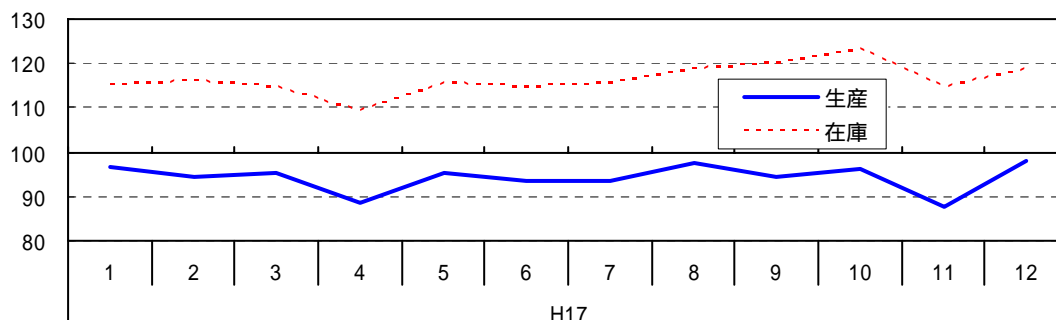
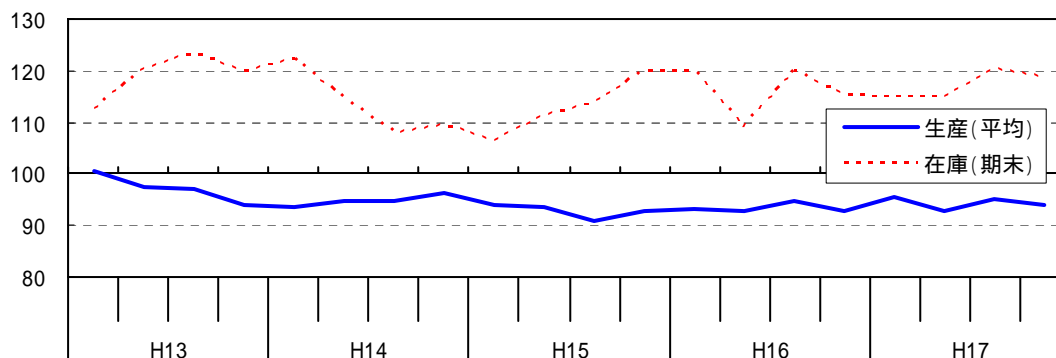


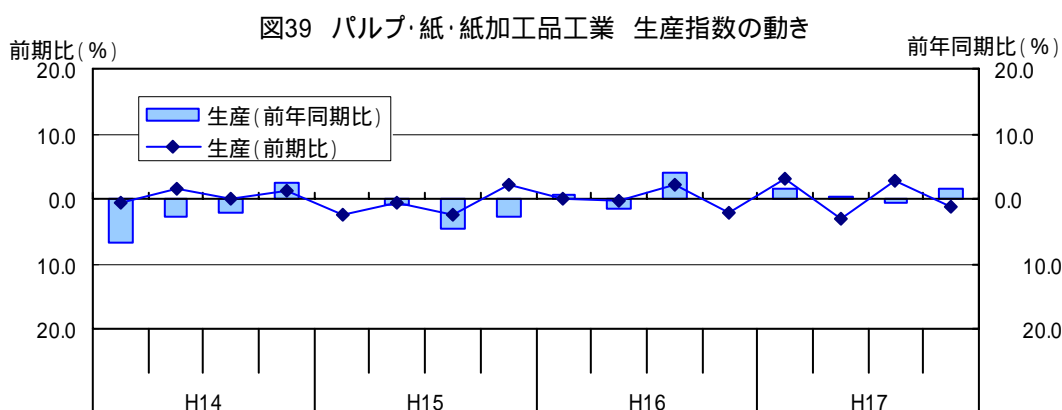
図38 パルプ・紙・紙加工品工業 四半期季節調整済指数(平成12年 = 100)



生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、1期は3.1%上昇し、2期で3.0%低下したが、3期には2.7%と再び上昇し、4期は1.3%低下した。

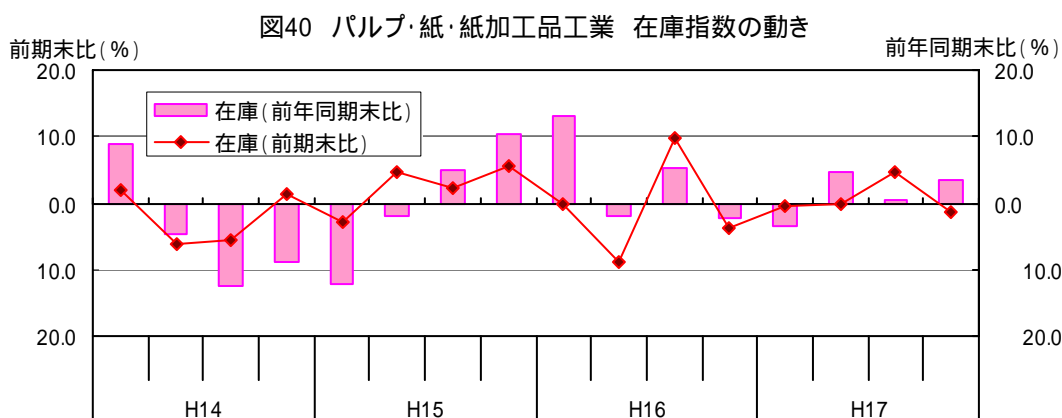
また、前年同期比（原指数）は、1期1.6%、2期0.3%と平成16年1期以降4期連続で前年を上回ったが、3期は0.5%と前年を下回り、4期では1.6%と再び前年を上回った（図39）。



在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、1期は0.6%低下した後、2期は0.0%と横ばい、3期は4.8%と上昇したが、4期は1.3%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、1期3.6%と前年を下回ったが、2期4.7%、3期0.6%、4期3.5%と3期連続で前年を上回った（図40）。



(11) 繊維工業

概況

生産指数は前年比 8.1% (寄与度 0.33) 低下の 78.4 となり、3 年ぶりに低下した。これは 5 品目 (化繊・紡績、織物、染色整理、衣類、その他繊維製品) すべてが減少したことによる (表 11)。

在庫指数は前年末比 12.3% (寄与度 0.78) 低下の 90.0 となり、3 年ぶりに低下した。これは 5 品目中、3 品目 (織物など) が減少し、2 品目 (化繊・紡績など) が増加したことによる (表 11)。

全体として、生産、在庫ともに低下した (表 11・図 41・42)。

表11 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成12年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年比末 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
繊維工業	506.6	85.3	78.4	8.1	0.33	582.2	102.6	90.0	12.3	0.78
化繊・紡績	196.3	90.4	87.4	3.3	0.06	262.0	102.0	109.9	7.7	0.22
織物	112.5	90.2	82.6	8.4	0.08	133.3	97.5	40.5	58.5	0.81
染色整理	36.0	76.3	75.0	1.7	0.00	64.4	76.2	73.0	4.2	0.02
衣類	44.6	47.8	45.9	4.0	0.01	28.3	180.3	62.0	65.6	0.36
その他繊維製品	117.2	89.1	72.6	18.5	0.18	94.2	106.2	125.1	17.8	0.19

寄与度は鉱工業に対する数値

図41 繊維工業 月別季節調整済指数(平成12年 = 100)

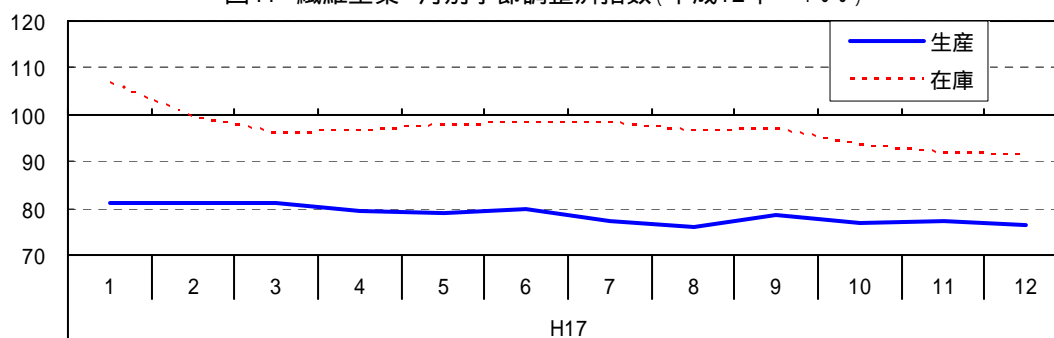
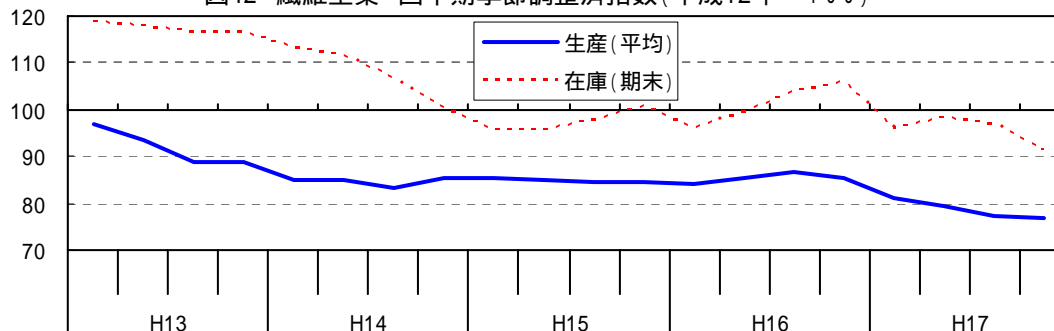


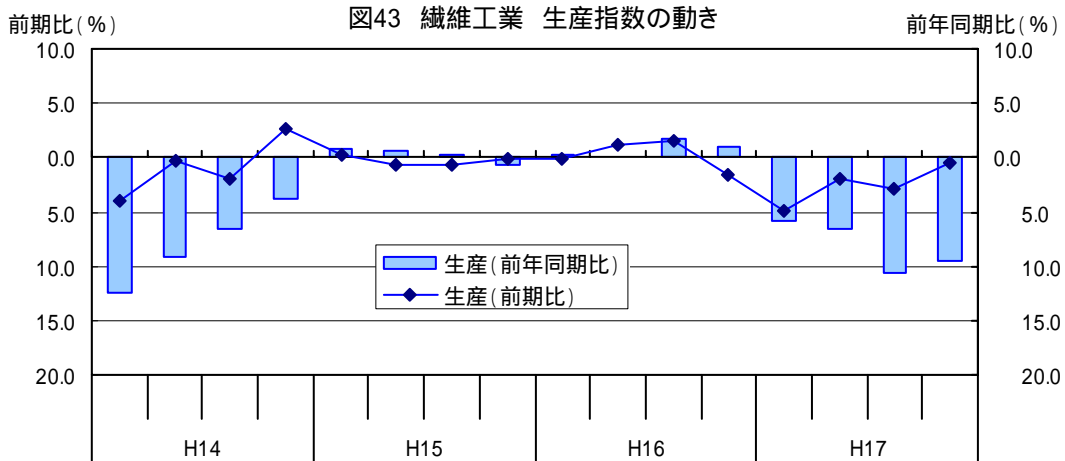
図42 繊維工業 四半期季節調整済指数(平成12年 = 100)



生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、1期 4.9%、2期 2.0%、3期 2.8%、4期 0.5%と平成16年1期以降5期連続で低下した。

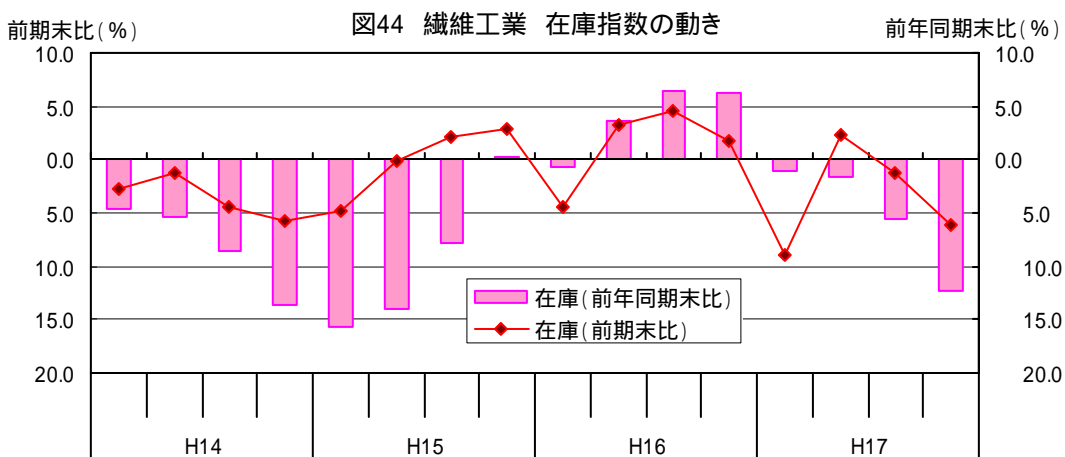
また、前年同期比（原指数）は、1期 5.9%、2期 6.5%、3期 10.6%、4期 9.5%と4期連続で前年を下回った（図43）。



在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、1期は 9.0%低下し、2期には 2.3%上昇したが、3期 1.3%、4期 6.1%と2期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、1期 1.0%、2期 1.6%、3期 5.5%、4期 12.3%と4期連続で前年を下回った（図44）。



(12) 食料品工業

概況

生産指数は前年比 5.6%(寄与度 0.20)低下の 87.1 となり、2年連続で低下した。これは8品目中、6品目(冷凍調理品、調味料、畜産製品、飲料、その他食料品工業製品、その他食料品)が減少し、2品目(乳製品、惣菜)が増加したことによる(表12)。

在庫指数は前年末比 13.4%(寄与度 0.75)低下の 68.0 となり、3年連続で低下した。これは8品目すべてが減少したことによる(表12)。

全体として、生産、在庫ともに低下した(表12・図45・46)。

表12 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
食料品工業	411.8	92.3	87.1	5.6	0.20	668.0	78.5	68.0	13.4	0.75
冷凍調理品	44.5	127.8	112.0	12.4	0.07	11.6	76.3	60.9	20.2	0.02
乳製品	41.6	101.0	105.1	4.1	0.02	18.4	87.4	82.7	5.4	0.01
調味料	21.9	90.5	89.0	1.7	0.00	28.3	85.9	73.4	14.6	0.04
畜産製品	73.1	87.8	77.2	12.1	0.07	6.0	89.4	89.3	0.1	0.00
惣菜	39.6	22.4	22.8	1.8	0.00	4.5	50.3	47.4	5.8	0.00
飲料	114.1	101.3	97.6	3.7	0.04	591.0	77.9	67.3	13.6	0.67
その他食料品工業製品	1.6	106.9	96.9	9.4	0.00	1.3	122.6	115.0	6.2	0.00
その他食料品	75.4	94.2	89.3	5.2	0.03	6.9	81.8	64.2	21.5	0.01

平成12年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図45 食料品工業 月別季節調整済指数(平成12年=100)

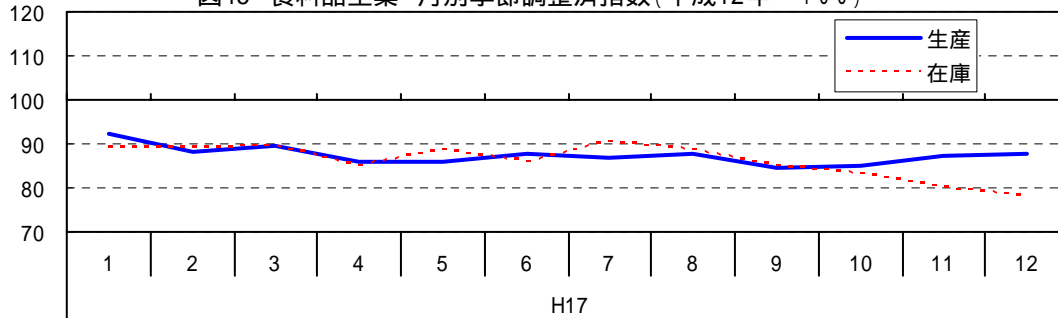
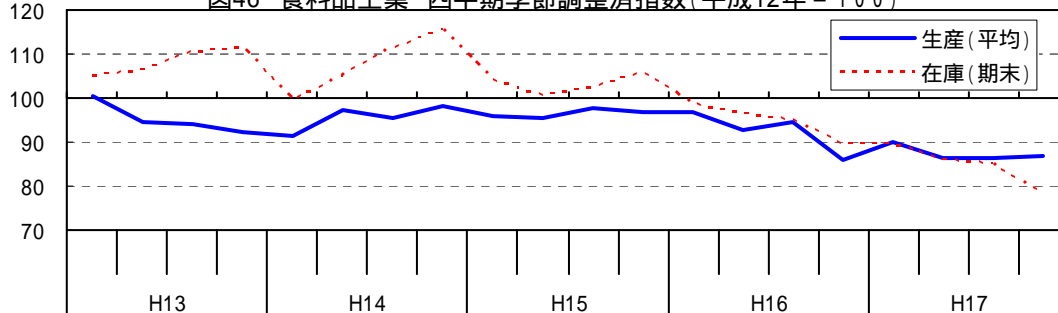


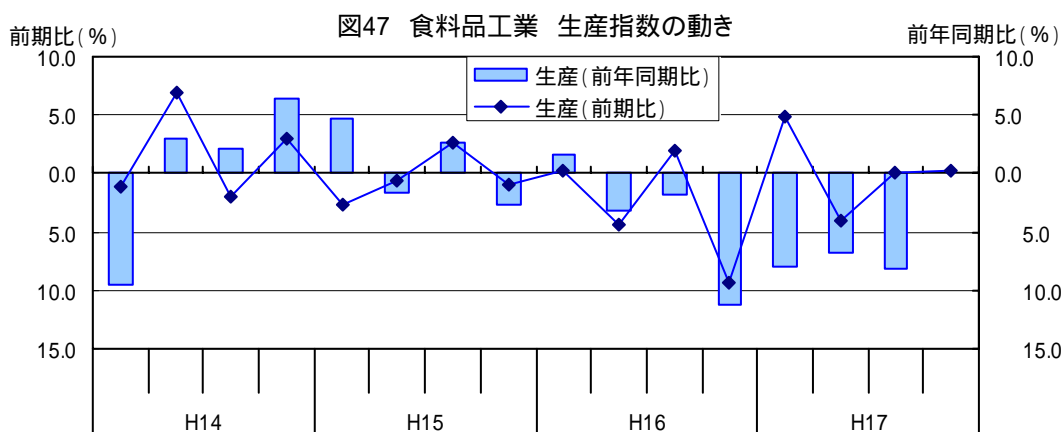
図46 食料品工業 四半期季節調整済指数(平成12年=100)



生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、1期は4.8%上昇し、2期には4.0%低下したが、3期0.1%、4期0.2%と2期連続で上昇した。

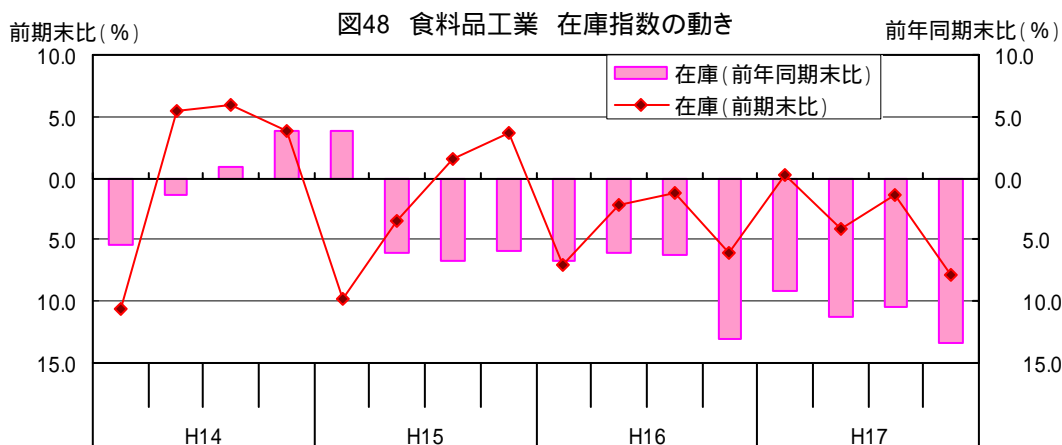
また、前年同期比(原指数)は、1期8.0%、2期6.7%、3期8.1%と平成16年期以降6期連続で前年を下回ったが、4期は0.0%と前年と同水準になった(図47)。



在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、1期で0.3%と上昇し、2期4.2%、3期1.3%、4期7.9%と3期連続で低下した。

また、前年同期末比(原指数)は、1期9.1%、2期11.2%、3期10.4%、4期13.4%と15年期以降11期連続で前年を下回った(図48)。



(13) その他の工業

概況

生産指数は前年比 3.3% (寄与度 0.12) 低下の 72.9 となり、2 年連続で低下した。これは 4 品目中、3 品目 (ゴム製品工業、木材・木製品工業、その他製品工業) が減少し、1 品目 (精密機械工業) が増加したことによる (表 13)。

在庫指数は前年末比 5.7% (寄与度 0.28) 低下の 97.4 となり、3 年ぶりに低下した。これは 4 品目中、3 品目 (その他製品工業など) が減少し、1 品目 (精密機械工業) が増加したことによる (表 13)。

全体として、生産、在庫ともに低下した (表 13・図 49・50)。

表13 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年比末 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成16年	平成17年				平成16年	平成17年		
その他の工業	492.4	75.4	72.9	3.3	0.12	450.2	103.3	97.4	5.7	0.28
ゴム製品工業	47.2	114.0	110.7	2.9	0.01	23.6	79.1	76.6	3.2	0.01
木材・木製品工業	159.7	87.4	83.5	4.5	0.06	204.9	135.5	123.5	8.9	0.26
精密機械工業	28.6	28.6	39.0	36.4	0.03	82.9	52.7	92.5	75.5	0.35
その他製品工業	256.9	66.0	63.2	4.2	0.07	138.8	90.0	65.4	27.3	0.36

平成12年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図49 その他の工業 月別季節調整済指数(平成12年 = 100)

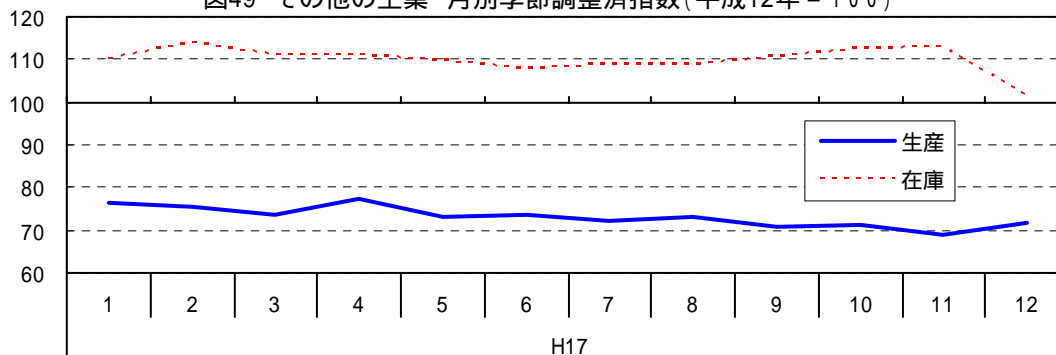
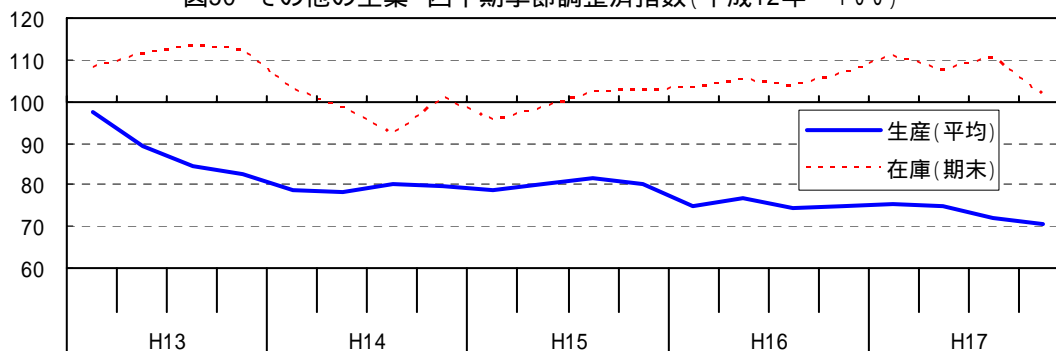


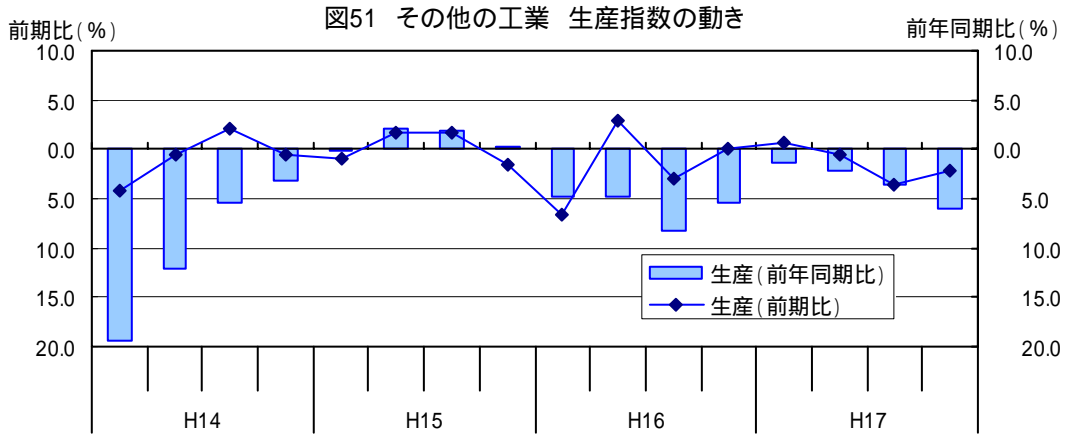
図50 その他の工業 四半期季節調整済指数(平成12年 = 100)



生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、1期は0.7%と上昇したが、2期0.5%、3期3.6%、4期2.1%と3期連続で低下した。

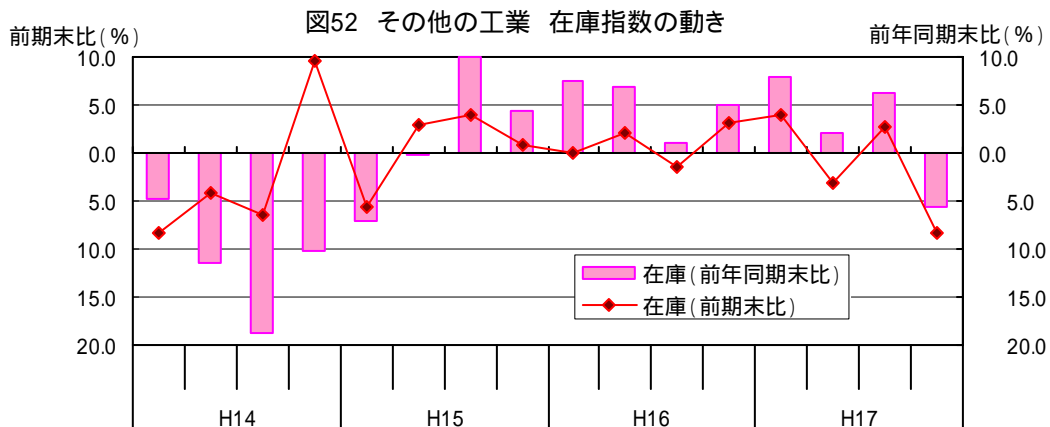
また、前年同期比（原指数）は、1期1.3%、2期2.1%、3期3.5%、4期6.0%と平成16年4期以降8期連続で前年を下回った（図51）。



在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、1期は3.9%上昇し、2期で3.1%低下したが、3期には2.8%と再び上昇し、4期は8.3%低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、1期7.9%、2期2.1%、3期6.3%と15年4期以降9期連続で前年を上回ったが、4期は5.7%と前年を下回った（図52）。



3 財用途別動向

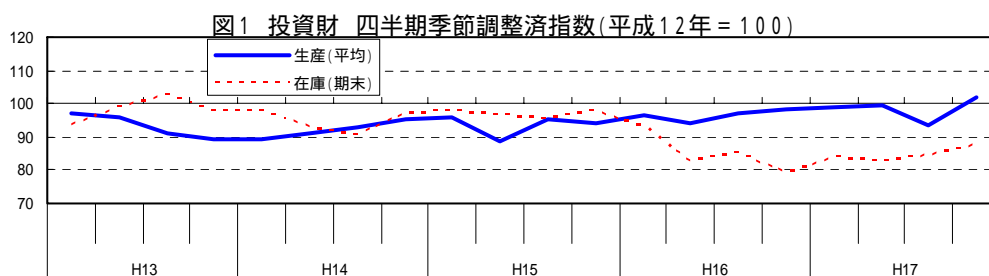
注：財用途別分類及び定義についてはP3「特殊分類(財別)」を、品目についてはP16～17「業種別・財別品目一覧」を参照。

(1) 最終需要財

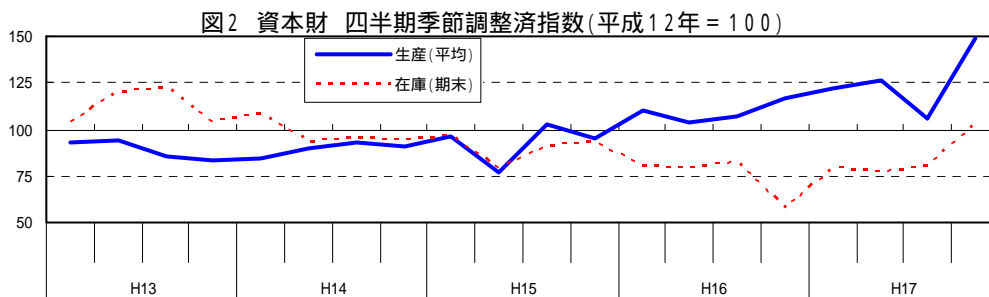
生産は前年比0.0%と横ばいで101.0となり、在庫は前年末比10.2%上昇の97.4となった(統計表第2表・第11表・第13表)。

投資財

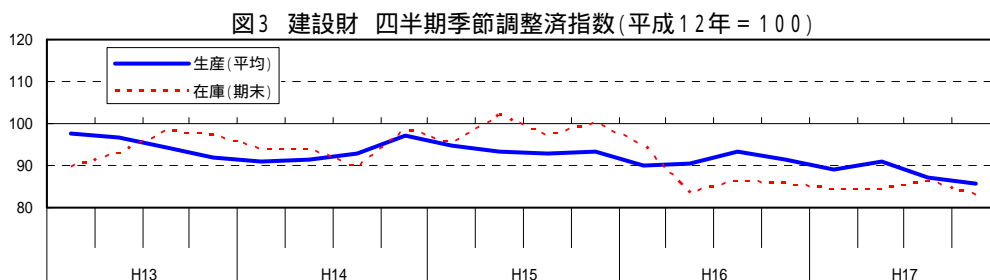
投資財全体では、生産が前年比(原指数)1.3%上昇の98.1となり、在庫が前年末比10.5%上昇の86.3となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、1期は0.6%、2期0.5%、と2期連続で上昇し、3期では6.1%低下したが、4期は9.4%と再び上昇した。(図1、統計表第2表・第11表・第12表・第13表)。



さらに細かい財目でみると、投資財のうち資本財は、生産が前年比12.7%上昇の123.7となり、在庫が前年末比82.7%上昇の102.3となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、1期、2期と2期連続で上昇し、3期では低下したものの、4期で再び上昇した。(図2)。

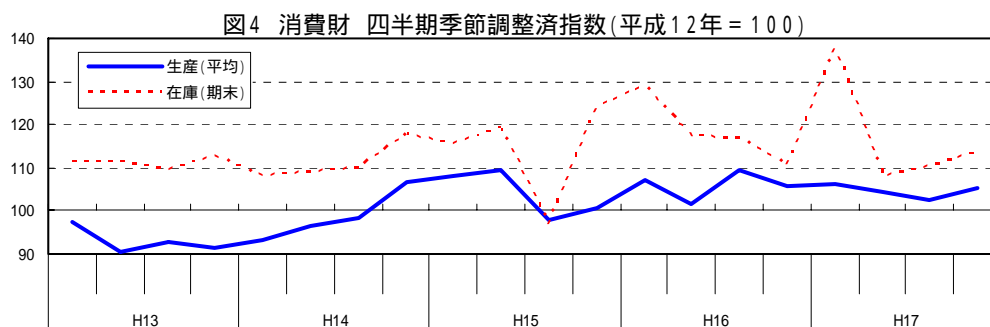


また、建設財は、生産が前年比3.9%低下の87.9となり、在庫が前年末比2.7%低下の81.9となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)で見ると、1期は低下し、2期には上昇したが、3期、4期と2期連続で低下した。(図3)。

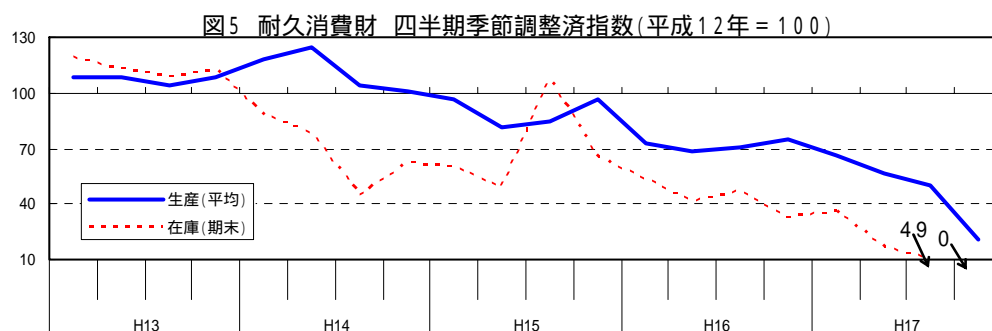


消費財

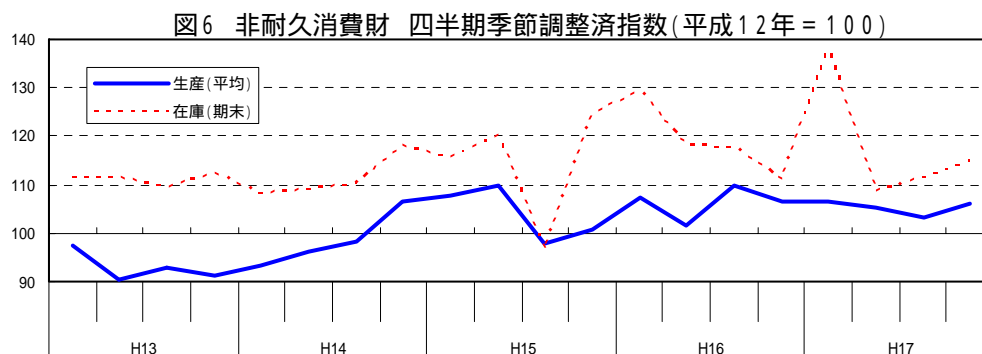
消費財全体では、生産が前年比（原指数） 1.5%の低下の 104.5 となり、在庫が前年末比 10.0%上昇の 110.3 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、期は 0.4%上昇し、期で 1.6%、期で 1.8%低下したが、期で再び 2.8%上昇した（図 4、統計表第 2 表・第 11 表・第 12 表・第 13 表）。



さらに細かい財目でみると、消費財のうち耐久消費財は、生産が前年比 32.9%低下の 48.9 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、4 期連続で低下した（図 5）。

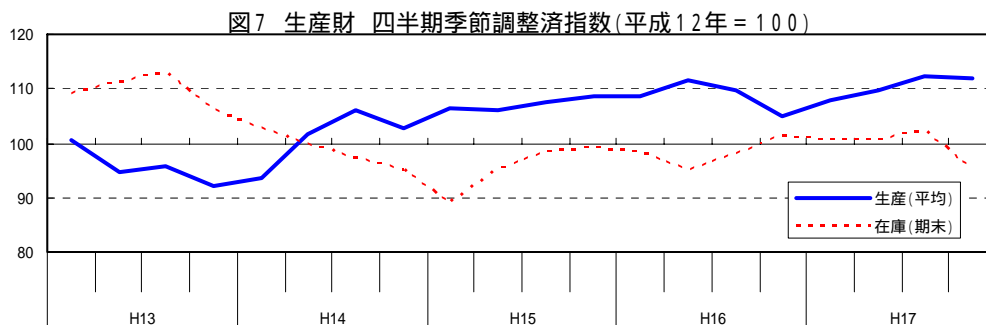


また、非耐久消費財は、生産が前年比 1.3%低下の 105.1 となり、在庫が前年末比 10.4%上昇の 111.3 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、期は上昇し、期で、期と 2 期連続で低下したが、期で再び上昇した（図 6）。

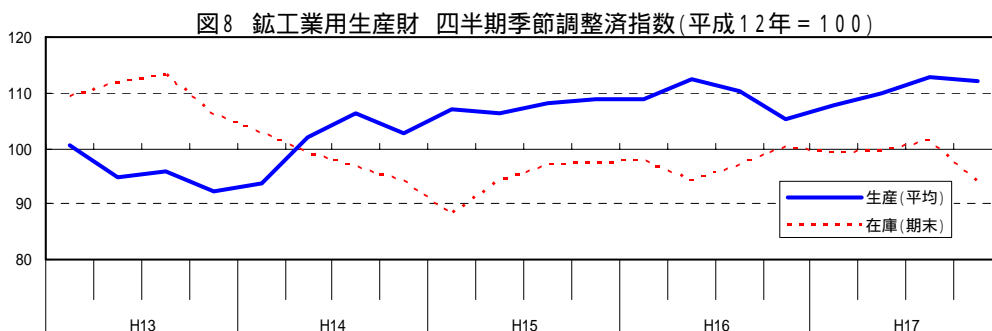


(2) 生産財

生産財全体では、生産が前年比（原指数）1.2%上昇の 110.2 となり、在庫が前年末比 5.3%低下の 94.7 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、 1 期 3.0%、 2 期 1.6%、 3 期 2.6%と 3 期連続で上昇したが、 4 期で 0.4%と低下した（図 7、統計表第 2 表・第 11 表・第 12 表・第 13 表）。



さらに細かい財目でみると、生産財のうち鉱工業用生産財は、生産が前年比 1.0%上昇の 110.5 となり、在庫が前年末比 5.6%低下の 93.0 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、 1 期、 2 期、 3 期と 3 期連続で上昇したが、 4 期で低下した（図 8）。



また、その他用生産財は、生産が前年比 4.6%上昇の 101.7 となり、在庫が前年末比 0.9%低下の 132.2 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、 1 期は上昇し、 2 期、 3 期と 2 期連続で低下したが、 4 期で再び上昇した（図 9）。

